

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.
117
海建

カーケン magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
修士論文・卒業研究
就職状況

目次

令和4年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	博士論文+修士論文+卒業論文・卒業設計	16
令和3年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績	18
学科イベントカレンダー	3	就職情報	29
研究室紹介	4		

● 令和4年度 研究室説明会日程

時間	1時限		2時限		3時限		4時限	
日・教室	9:50~10:30	10:40~11:20	11:30~12:10	13:20~14:00	14:10~14:50	15:00~15:40	15:50~16:30	
4月6日(水) 1325教室	北嶋研究室 [構造工学]	高橋研究室 [建築構法]	福井研究室 [コンクリート 構造工学]	恵藤研究室 [海洋構造デザイン]	居駒・相田 研究室 [海洋空間利用工学]	沿岸域工学 研究室 (野志)	星上研究室 [沿岸環境防災]	
4月7日(木) 1325教室		親水工学研究室 (菅原)	ウォーター フロント都市 工学研究室 (寺口)		山本研究室 [沿岸地域計画学]	小林研究室* ¹ [海洋建築・建築 デザイン]	佐藤研究室 [建築デザイン・ 計画]	

*1 小林研究室はゼミ生の受け入れは行いませんが、山本研究室と親水工学研究室のデザイン志望の学生に対して小林先生が指導フォローを行うため説明会を開催します。

令和4年度 教室主任・クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
教室主任	福井 剛	1366	047-469-5527	fukui.tsuyoshi@nihon-u.ac.jp
学部1年	高橋 孝二	1365	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1345	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
学部2年	山本 和清	1362	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1357	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
学部3年	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
	野志 保仁	1335	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
学部4年	星上 幸良	1334	047-469-5396	hoshigami.yukiyoshi@nihon-u.ac.jp
	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
	相田 康洋	1341	047-469-5482	aida.yasuhiro@nihon-u.ac.jp
大学院	小林 直明	1346	047-469-8362	kobayashi.naoaki@nihon-u.ac.jp

令和4年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	高橋 孝二	1365	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp
	菅原 遼	1345	047-469-5424	sugahara.ryou@nihon-u.ac.jp
	寺口 敬秀	1357	047-469-5526	terakuchi.takahide@nihon-u.ac.jp
学生相談	佐藤 信治	1352	047-469-5419	sato.shinji@nihon-u.ac.jp
留学生担当	高橋 孝二	1365	047-469-5568	takahashi.koji20@nihon-u.ac.jp

学科
事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL: 047-469-5420 FAX: 047-467-9446

岡崎 敏美
関野 まゆみ

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
sekino.mayumi@nihon-u.ac.jp

学生受賞

●優等賞

小林葵 有馬成美
深津信太郎 関亮太

●理工学部長賞

佐藤友香：2021年度日本建築学会大会学術講演会（海洋建築部門）
若手優秀発表賞受賞（桜井・寺口研究室）

●加藤賞

宮原椋一：PC鋼材の付着がプレキャストPC部材のせん断抵抗機構に与える影響に関する実験的研究（福井研究室）
深谷勇介：梁中間ヒンジが生じるPC骨組の地震後たわみ評価手法の提案（福井研究室）
藤島健英：垂直軸型風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン型浮体の動揺低減効果に関する基礎的研究（居駒・相田研究室）

●海建優秀賞

杉山浩隆・菅生一麻：折返しプレースの疲労特性に関する実験的研究（北嶋研究室）
柄澤大樹・吉田大和：PC骨組の梁スパン内ヒンジを回避するための補強方法に関する解析的研究（福井研究室）

●桜建賞

樋口黎：ウォーターフロントの特性に配慮した公衆トイレの整備実態に関する研究－全国39都道府県を対象とした調査－（桜井・寺口研究室）
横山将弥：隅田川テラスの来訪者にみるコロナ禍における水辺空間の意識・役割に関する調査研究（親水工学研究室）
関亮太：新陳代謝－銀座におけるメタボリズムの構想を取り入れたビル群更新の提案－（佐藤研究室）

●海建賞

小林真子：谷に繰り出す－渋谷駅周辺の新たな都市導線と地下空間の提案－（小林研究室）
高野楓太・福島康平：海水浴場におけるUAVを活用した監視方法に関する基礎的研究（星上研究室）

松尾哲平：海岸管理におけるB/Cの検討（沿岸域工学研究室）
大木誠也・北島大誠・木下龍太郎・新家裕登：SCRの挙動土壌の相互作用に関する基礎的研究（恵藤研究室）
関勇也：直列2角柱のギャロッピング振動に関する数値解析（近藤研究室）
富岡敏生：津波災害時における漁業集落の孤立化問題に関する調査研究（山本研究室）
今泉優作：避難開始地点と海岸との定量的関係を考慮した津波避難ルートに関する基礎的研究（居駒・相田研究室）

●桜工賞

國府田有加：2021年度日本建築学会大会（東海）・構造部門振動分野での若手優秀発表賞受賞による貢献
中村美月・横畑佑樹・渡辺真理恵・有馬成美・小川香奈・川田遥・小林功基：設計コンペティションでの受賞（土木デザイン設計競技景観開花。2020：最優秀賞、日本建築学会関東支部第22回提案競技：特別賞）による貢献
高橋大樹・小林真子：学科広報活動への貢献

●令和3年度（第65回）理工学部学術講演会優秀発表賞

横田拓也：漂砂と飛砂を同時に考慮した混合粒径海浜の変化予測モデル（沿岸域工学研究室）
国府田有加：2方向地震動を受ける4階建て滑り基礎構造物の地震応答性状に関する研究（北嶋研究室）
小林陽太：水面を利用した木密地域の更新の提案（佐藤研究室）
鷹田知輝：新しい時代の再開発事業における都市と建築の計画提案（小林研究室）
高須健巨：津波自主避難計画策定マニュアルに関する基礎的研究（星上研究室）
薬師神慧人：沿岸地域の再編に向けた造船所の跡地利用に関する調査研究－その2 全国の造船所跡地の利用状況に着目して－（親水工学研究室）

学科イベントカレンダー

2022年

4月7日(休)	新入生歓迎会	夏季休暇中	海洋実習Ⅱ（2年生）
5月中旬	新入生オリエンテーション	10月28日(金)	桜理祭（～10月30日(日)）
7月中旬	「海と建築」ポスター発表会（1年生）	12月1日(休)	理工学部学術講演会
夏季休暇中	海洋実習Ⅰ（1年生）	—	—

2023年

1月上旬	博士論文公聴会	3月6日(月)	卒業・修了発表
2月上旬	卒業研究発表会	3月25日(土)	卒業式（学位記伝達式）
2月下旬	修士論文審査会	—	—

海洋建築・建築デザイン研究室

1346 室

Teaching Staff



教授
小林 直明

●研究室紹介

研究室は、「建築を通して社会貢献する」を理念とし、設計提案または研究活動の成果を実際のプロジェクトに反映できるようにしています。さらに研究室でいうデザインは、単なる「かたち」ではなく全て機能があり、技術の裏付けがあることを基本にしています。

海洋建築工学分野自体は建築と土木と、またその他の技術分野の融合が重要である認識しています。さらに建築は現在まで培ってきた技術と異分野の技術の融合させることで更なる発展があると考えます。故に周辺のまちづくり、自然の環境、自然エネルギー、地域特性等を考慮して建築を設計します。

イノベーションを起こす場合、単独分野の既往の技術に縛られることなく異分野技術との融合を図ることで達成されるケースが多いことから、既往の技術の集積でなく、常にチャレンジ精神で新しい物事に向き合う姿勢が重要です。また、3.11 復興において、建築と土木の両分野の融合でもある海洋建築工学分野は、自然と防災、ユニバーサルデザイン、同時に地域産業と共存できる将来の国土づくりのリーダーシップを担う使命があると考えます。

新たにデジタルファブリケーションによる建築パラメトリック

デザインを研究テーマに加えました。地方活性化に繋がる空き家の設計から施工までのリノベーション実施プロジェクトを開始しています。また、デジタルファブリケーションは、遠洋における海洋開発資源基地の居住空間の設計から施工までのセルビルドに貢献できます。

●卒業設計・研究のテーマ

[建築・海洋建築・まちづくり計画デザイン]

- 1) 建築と土木を融合した海洋建築デザイン・サステナブル海洋建築デザイン
- 2) 人の知的生産性（プロダクティビティ）と行動（アクティビティ）を高める建築デザイン
- 3) 新交通システムと連携する建築デザイン
- 4) 3.11 復興計画デザイン・東南海トラフ地震による津波被災想定地のまちづくりと建築デザイン
- 5) 歴史的建造物の動態保存（使いながら保存する）と歴史的建造物のサステナブルデザイン
- 6) 既存ストックを利用した建築デザイン
- 7) デジタルファブリケーション建築パラメトリックデザイン

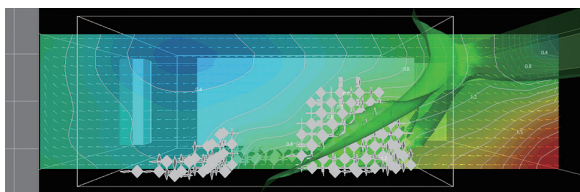
●山本研究室および親水工学研究室のデザイン系ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、デジタルファブリケーション建築デザインをテーマとします。パラメトリックデータ利用で、設計からセルフビルドまで実施プロジェクトに取り組むことを主なテーマとします。

●着手条件

建築大好きな学生。デザイン（建築だけに捉われない）大好きな学生がゼミ着手必須条件となります。

基本的には卒研は設計提案が基本となります。



デジタルファブリケーション建築デザイン
(パラメトリックデータ利用による設計)
換気時気流シミュレーションとセルフビルド：FURNITURE wall



第 33 回千葉県建築学生賞優秀賞：未成熟の遺産 山戸善伸

建築デザイン・計画研究室

1352 室

Teaching Staff



専任講師
佐藤 信治

●研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築やデザインが好き！であることが大切です。建築のデザインはある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒にワイワイ・ガヤガヤと学びたいと思います。

また建築をデザインする前段階としては建築を計画することも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで(含、施工)の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、大学院、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年100%(当研究室比)を維持しています。

●卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計・デザイン〉と〈建築計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計・デザインテーマと建築計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計・デザインテーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・内蔵を活用したサテライトオフィスのデザイン
- ・3Dスキャナーを活用した空間アーカイブ
- ・「MR(Mixed Reality)」を活用したデザイン
- ・Urban Plan program in Japan (ULI) への参加

〈建築計画テーマ〉

- ・秋田県各地区の登録有形文化財の調査
- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務

所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。コロナ前の2019年は、秋田県横手市増田町地区とコラボレーションしました。合宿期間中においては、自ら調べ、様々な建築物をデザインし、最終的には市民の前でプレゼンテーションし、交流を図ります。

また、2011年度からは中華人民共和国北京市の中国建築科学研究院と共同で海外インターンシップを開催しております。2021年は江山经济开发区において市民センターをデザイン(写真1、2)し、計画は現在進行中です。

さらにアメリカのAIAアジアとの共同プログラムとしてUrban Plan program in Japan (ULI) への参加を予定しております。

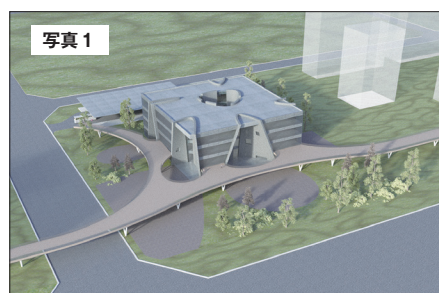
●ゼミナールのテーマ

設計デザイン及び建築計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。また、大学院生や学部生とのコラボレーションでコンペへの参加を推奨しております。U30復興デザインコンペ2021「複合災害と新たな都市像」では最優秀賞を受賞し、日本建築学会創立120周年記念事業第22回提案競技「美しくまちをつくる、むらをつくる」で特別賞(第二位)を受賞しました(写真3、4)。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。



沿岸地域計画学研究室

1362 室

Teaching Staff



准教授
山本 和清

●研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「ハンザ（旧アクセスディンギー）」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業が中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してハンザの体験乗船会を実施し（写真1、2）、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。この様な活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障がい者にも優しいまちづくりに

ついて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

●卒業研究のテーマ

【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 沿岸域の防災まちづくりに関する手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

【海洋プロジェクト系】

- 1) 海洋政策及び沿岸まちづくりにおける制度設計（再生・復興・復活・改革）
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。尚、デザイン系希望の学生は小林直明先生にご指導いただきます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。



写真1 「たてやま海まちフェスタ」
ハンザ体験乗船会



写真2 「船橋港まつり」ハンザ体験乗船会



写真3 研究室合宿でのゼミ課題発表会



写真4 新入ゼミ生歓迎会
（東京都臨海広域防災公園見学会）

親水工学研究室

1345 室

Teaching Staff



助教
菅原 遼

●研究室紹介

本研究室では、「人と水との係わり」をテーマとして、水と都市、水と建築、水と空間、水と生活などの観点から、私たちの生活環境における水環境の意味を探り、生活環境の質的向上に寄与する親水空間や海洋建築の計画的知見を得るための活動を行っています。

研究活動では、水との係わり方を実際に観察できる現地調査を重視し、フィールド・サーベイやオーラルヒストリーなどの調査手法を駆使して、都市部から農村部にかけての海や河川、運河などの多様な水環境をフィールドとした調査を行います。そのため、研究室では「歩く・見る・考える・伝える」チカラの修得を重視し、建築を観て、都市を感じ、水辺を知り、地域を理解するための関連研究・文献の紹介や、実際に水辺を訪れるまち歩きワークショップの開催など、研究テーマに関する理解増進や興味・関心を深めるための活動を行っています（写真1）。

また、地域と連携した実際的な研究活動や設計活動も行っており、研究成果のアウトプットや地域の方々との連携したものづくり経験を通して、まちづくり・ものづくりに対する多角的な考え方を養い、将来、社会で活躍できる人材育成を行っています（写真2）。

本研究室を卒業したOB・OGは、建設コンサルタント、ゼネコン（都市開発、施工管理）、内装設計、公務員など、都市・地域・建築計画立案や建築設計施工に携わる企業に就職しており、こうしたOB・OGによる就職情報交換や大学院進学支援も行っています。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナール活動では、前期は、都市・地域・建築計画に対する思考力や表現力の修得に向けたゼミ課題を実施します。具体的にはIllustratorやPhotoshopを用いた表現技術をわかりやすく丁寧に解説指導します。また、地域と連携した実際的なデザインビルドを全国各地の水辺（千葉県八千代市、神奈川県横浜市、新潟県佐渡市）で行います。後期は、卒業研究・修士論文と連携した研究活動を行い、文献調査や現地調査、研究発表などを通して研究の基礎を養い、卒業論文

の執筆に向けた自身の興味・関心の深化を図ります。尚、デザイン系希望の学生は指導のフォローを小林直明先生に行なっていただきます。

●卒業研究のテーマ

卒業研究では、ゼミナール活動を通じて興味・関心を深めたテーマを中心に親水工学に関する調査研究を行います。近年の卒業研究のテーマは下記の通りです。

【都市・建築系】

- ・沿岸域の風土的建築物の環境特性に関する研究
- ・都市水面活用による地域づくりに関する研究
- ・湧水を活かした地域づくりに関する研究
- ・水害常襲地域の地域建築対応に関する研究
- ・海拔ゼロメートル地域の地域建築対応に関する研究

【人間行動・意識系】

- ・親水空間における人間行動と評価に関する研究
- ・水辺の市民開放施策に関する研究
- ・水害常襲地域の災害意識に関する研究
- ・水郷集落の水利用に対する住民意識に関する研究

【地域・建築デザイン系】

- ・仮設性および移動性を考慮した建築物デザイン
- ・都市熱緩和のための親水空間デザイン
- ・貯木場水面の活用のための海洋建築物デザイン
- ・漁港漁村活性化のための地域デザイン
- ・コロナ禍での水辺空間利用のためのデザイン

●着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください。希望者は、研究室活動や卒業研究着手、就職活動に支障のないように単位を取得していることを希望します。大学院進学希望についても、個別面談時にご相談ください。



写真1 まち歩きワークショップ@三島市・源兵衛川

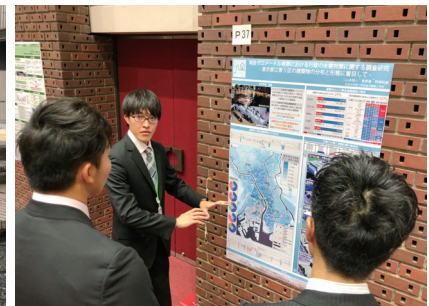


写真2 学会での研究成果発表



写真3 竹建築のデザインビルドによる実践活動



写真4 水辺の建築の実測調査

ウォーターフロント都市工学研究室

1357 室



●研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

- (1) 社会人として最も大切なのは時間を守り有効に使うことです。ゼミで最初に学ぶのは「**時間の管理**」です。時間を把握し、主体的に管理し、破綻のないスケジューリングを計画・実践する技術を身につけます。
- (2) ゼミ論や卒研のテーマは、自分の好きなことで挑戦できます。問題だと感じていること、将来、社会で必要になってくることを考え、自らが提案します。計画や企画・開発の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「**ニーズを掘り起こす能力**」が必要だからです。
- (3) どんなに優れた研究でも人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。自分の言葉で、わかりやすく、決められた時間内で、興味を引き飽きさせない「**プレゼンテーション力**」を養います。

●ゼミナール活動

前期は、時間管理や就活に向けた座学と、三番瀬やWFの見学会を実施します。夏季休暇前（7月頃）～12月末までの約半年間はゼミナール研究論文を作成し、成果は4年次に学会で発表します。学生の学会発表状況などは、本誌各研究室紹介の後に続く「教員研究業績・研究室活動業績」をご覧ください。

●2021年度のゼミナール研究論文テーマ

- 阿部拓真：都市部の水害リスク低減に向けたスタジアム敷地の活用について
- 市川忠樹：都市部の河川および水路における開渠化・二層化の整備状況と維持管理体制について
- 今江啓太：海洋教育を実施している施設の実態把握
- 友成勇翔：南海トラフ地震に伴う津波対策としての指定緊急避難場所の整備実態について
- 野々下桃花：大規模災害時における救援拠点としての「海の駅」の活用可能性について
- 嶋田健太：隅田川親水テラスにおけるデザインの分節化に関する調査とマップ作りについて
- 渡部颯将：東京湾沿岸の津波・高潮による浸水が想定される地域に立地する避難所の適正配置について



WF 見学会（東京・隅田川沿い）



2021年のゼミ発表会

●過去の卒業研究論文テーマ例

(A) ウォーターフロントを快適利用する環境整備

- ① ウォーターフロントの住宅を選ぶ住民の居住意識
- ② 高齢者に配慮した親水テラスの整備方法
- ③ 調整池の市民開放と多目的利用に向けた方策
- ④ ベット専用ビーチの整備と運営手法
- ⑤ 水中文化遺産を利用したダイビングスポット整備

(B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥ 港湾倉庫の歴史を継承するための動態保存策
- ⑦ 水辺景観を向上させる保存船舶の展示方法
- ⑧ 要塞跡・砲台跡の活用方針
- ⑨ SNS 投稿内容からみた観光客の興味対象の分析
- ⑩ 大規模防潮堤による景観や観光地への影響

(C) ウォーターフロントの開発と有効利用

- ⑪ クルーズ船誘致による沿岸部の地域振興方策
- ⑫ 漁港を活用した水上飛行機の就航地選定
- ⑬ 浮体施設の建造に伴う法規制の研究
- ⑭ 灯台の地域資源としての価値評価と保存活用方法
- ⑮ 洋上風力発電施設設置に向けた漁業者の意識

(D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑯ 津波ハザードマップの表記統一と利用促進方法
- ⑰ 津波避難ビルの建築を誘導する条例・制度内容
- ⑱ 海水浴場などマリンスポーツ施設の津波避難計画
- ⑲ 河川を遡上する津波からの避難対策
- ⑳ 市町村連携による避難困難地区の解消方法

他にも色々なテーマの研究があるので、是非研究室に来て過去の研究を見てみてください！

●主な年間行事（③④の学会発表は4年生以上）

- ① WF 見学会・ゼミ生歓迎会（5月）、② 三番瀬体験散策会（6月）、③ 日本沿岸域学会研究討論会での発表（6月）、④ 日本建築学会大会での発表（9月）、⑤ 夏季研修旅行（9月）、⑥ 日本大学理工学部学術講演会での発表（12月）、⑦ ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑧ 研究室卒研発表会（2月）

●着手条件

研究室説明会に必ず出席し、個人面談を受けてください。研究活動では自分の目で見て感じたことや興味・疑問を持ったことからテーマを決めるので、本研究室のフィールド（都市計画や都市政策）に興味があり、現地に向かうことや体験することが好きな人が好ましいです。なお、基礎知識として、ウォーターフロント計画Ⅰ・Ⅱ、建築法規などの科目を履修していることが望ましいです。

興味を持ったらまずは教員や研究室の学生に話を聞いてみてください！

海洋空間利用工学研究室

1341 室

Teaching Staff



教授
居駒 知樹



助教
相田 康洋

● 研究室紹介

当研究室は海洋再生可能エネルギー利用をはじめとして、海で利用する各種海洋建築物、海洋構造物が波や流れからどのような影響を受けて、どのように動くのかなどの波浪中の耐波性能の視点から設計を考える研究をしています。そのために波浪の性質なども研究の対象領域です。また、波浪だけでなく津波や高潮などの自然災害に関わる海洋波も研究対象であり、さらにそれらによる災害そのものや対策を考えることも当研究室の研究領域です。非常に研究領域が広がるため、必要な各種解析プログラムの開発やそのための理論構築、数値計算力学(CFD)的手法の開発を行っています。それらを駆使して、海上プラットフォームの新技术開発、波力発電・洋上風力発電浮体・潮流発電等のシステムの解析法開発・最適化、津波のような強非線形波浪による構造物への流体荷重や物体同士の衝突荷

重、津波被害予測と避難対策技術提案など、海洋空間を利用するために必要な工学技術全般に関わる研究と提案をしています。

研究のキーワード：浮体システム、海上・海域施設、流体解析、浮体挙動、海洋再生可能エネルギー、津波防災・減災、強非線形海洋波、海洋空間利用・提案、デジタルツイン

● 卒業研究のテーマ

卒業論文・修士論文に記載した研究テーマや、それぞれのテーマにまたがった横断的な研究テーマも含め、各自の意向に基づき卒業研究を選択して実施します。



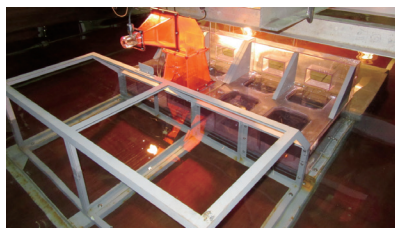
修士・卒業研究に取り組む学生

● 着手条件

特に条件は求めないが、「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生、また大学院への進学希望者を歓迎します。巨大津波に対する防災や減災、避難に関する研究や、更なる海洋再生可能エネルギーの利用や開発など「海洋建築」に興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。



垂直軸型可変ピッチ翼水車の実海域実験



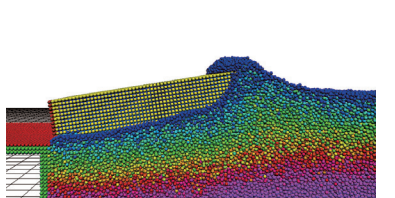
水柱振動型波力発電装置の水槽実験



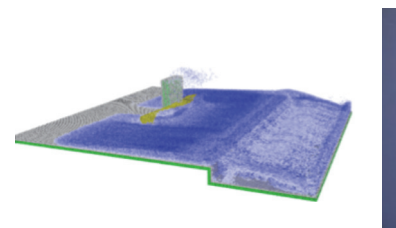
浮体式垂直軸型洋上風車モデル



粒子法による浮体乗り上げシミュレーションと実験の比較



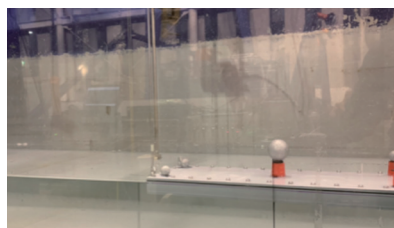
浮体式垂直軸型水車の実験模型



津波による建築物と浮体の衝突シミュレーション



建築物に作用する津波衝撃波圧に関する実験



津波による作業船の漂流速度に関する実験

海洋構造デザイン研究室

1342 室



2019年度の夏合宿の写真(群馬県 花咲温泉)

Teaching Staff



准教授
恵藤 浩朗

特任教授
近藤 典夫

●研究室紹介

『海の“チカラ”で未来はもっと素敵になる』というコンセプトのもと、新しい価値を有する海洋建築物を提案し、海洋建築物の実現に向け技術的な課題を解決する研究活動を展開しています。そして「海」に求められる価値を最大限に発揮するデザインを考え、検証と改善を繰り返シクオリティの高いものを生み出す「デザイン思考」を身に付けた技術者の育成を念頭に指導します。皆で“楽しく”学べる、そんな研究室を君達と一緒に創りたいと考えています！

<研究室の主な年間行事予定>

①ゼミ生歓迎会(4月末予定)、②タイピングコンテスト(7月)、③卒研・修論中間報告会(夏季)、④体験航海(8月)、⑤夏合宿(9月)、⑥卒研・修論最終報告会+打ち上げ(2月)、⑦卒業式

●卒業研究のテーマ

「海」を利用した新しい価値、新しい社会を構築する海洋建築物を提案し、海的作用を直接受けるそれらの実現に必要な設計関連技術の全てが研究対象です。

- 1) 新しいコンセプトを持つ海洋建築物の提案とその実現可能性に関する技術的な検討
- 2) 係留システムを含めた大型浮体式海洋建築物の波浪中応

答解析や構造解析による各種性能評価

- 3) ジャケット構造物の損傷同定を目的とした振動解析と健全性評価システムの構築
- 4) GIS(地理情報システム)などデジタル情報技術を活用した海洋建築物の適地選定手法の開発
- 5) 地震動を受けた大型貯蔵タンク内のスロッシングなど液面動揺に関する数値的研究
- 6) 数値計算による生態系ネットワークの解明 など

●ゼミナールのテーマ

ゼミでは、卒業研究や就職活動、大学院生活で役立つ海洋や建築の基礎をしっかりと身に付けます。

- 1) 海洋建築物に関する基礎的な知識を深めます
- 2) PCスキル(レポート作成、プレゼンテーション、CADによるモデリング、GISなど)を鍛えます
- 3) プログラミングを基礎の基礎から学び、簡単な構造解析プログラムの開発を通して基礎的な数値シミュレーション能力を身に付けます

●着手条件

「海洋建築」が大好きな人を募集しています。必要な知識やスキルは研究室に所属したあとに共に学びます。興味があれば、研究室説明会に必ず出席し、個別面談(教員や所属学生との雑談)を受けて下さい。

最新情報は
こちら→



Web



Instagram



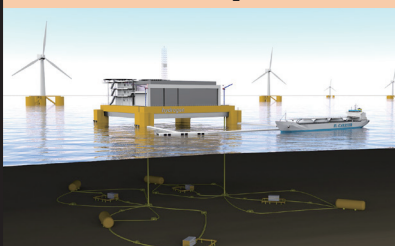
Facebook

Web : <https://etohiroaki4.wixsite.com/labo> (PCでの閲覧を推奨)

Instagram : https://www.instagram.com/marine_structural_design_lab/

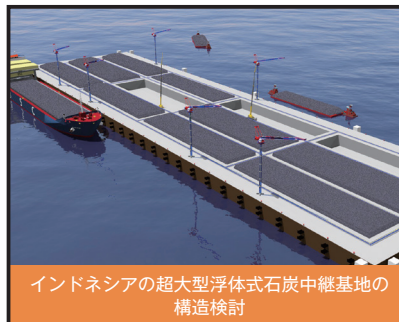
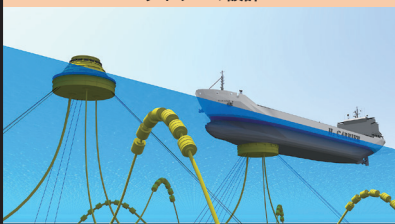
Facebook : <https://www.facebook.com/msdl.nu/>

風力発電で得た電力をH₂(水素)に変換

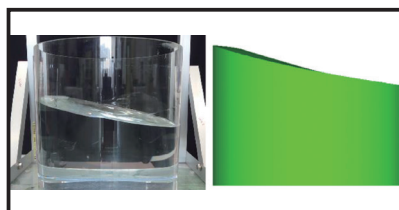


海底施設から船に水素を運ぶライザーの設計

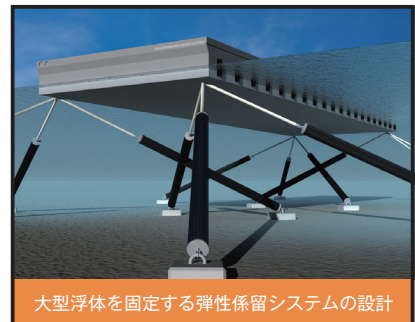
深海を活用した次世代水素エネルギー生産施設の提案



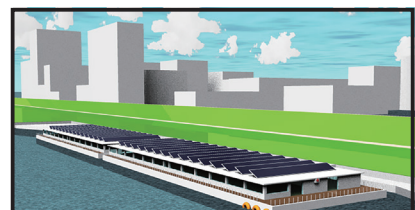
インドネシアの超大型浮体式石炭中継基地の構造検討



十勝沖地震動を想定した地震動を受けたタンク内の液面動揺の模型実験とシミュレーション結果



大型浮体を固定する弾性係留システムの設計



災害後に被災地の中心で役立つ医療支援浮体を提案

構造工学研究室

1361 室

Teaching Staff



教授
北嶋 圭二

●研究室紹介

北嶋研究室では、沿岸域の陸上建築物から氷海域の海洋構造物まで、設置場所や構造種別にとらわれず、幅広い建築構造物を対象に「より高度で合理的な構造システム」に着目して研究を行っています。

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターや環境・防災都市共同研究センターの大型・最新実験設備を用いた、“建築構造システム”および“建築構造部材の構造性能”に関する実験的研究が多いことです。これまでに世界的にも例の少ない大型構造実験を数多く実施してきました（写真1）。

また、建物の耐震性能評価や制震構造設計法の開発のために、弾塑性地震応答解析などコンピューターによるシミュレーション技術を用いた解析的研究も数多く行っています。その他、テクノスペース 15 に設置されている低温実験室の氷海水槽を用いた実験的研究も行っています。

建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか幅広い分野を対象に研究を行っています。

●主要な研究テーマ

1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建築物の耐震性能に関する研究

- 1-1 損傷低減のための耐震設計法並びに制震補強技術の開発
- 1-2 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- 1-3 超高層 RC 造建物の柱および柱梁接合部の構造性能に関する研究
- 1-4 海外の RC 造建物の耐震規定に関する調査・研究 etc

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- 2-1 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- 2-2 滑り基礎構造システムに関する研究（写真2）
- 2-3 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究（写真3）
- 2-4 制震構造建物の性能評価および設計法に関する研究



写真1 大型構造物試験センターでの構造実験



写真2 滑り基礎構造建物の振動台実験



写真3 折返しブレースの取付状況



写真4 低温実験室における氷海構造物の実験

2-5 間柱型レンズダンパーの研究・開発

2-6 高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究 etc

3. 海洋建築物の構造性能に関する研究

- 3-1 津波漂流物の衝突に関する研究
- 3-2 氷海構造物の氷荷重評価と応答性状に関する研究(写真4)
- 3-3 海底地すべりに関する実験的研究
- 3-4 海洋建築物の設計指針策定に関する調査・研究 etc

4. その他、企業からの受託研究など

1-1 の制震補強技術は既に 100 棟以上の実施適用例があり、実際の地震防災対策に大いに役立っています。2-3 の折返しブレースや 2-5 のレンズダンパーのテーマも既に実施例が数例あり、合理的な構造システムとして注目されています。その他のテーマについても、研究成果を論文発表というかたちで情報発信することにより、構造技術の発展に貢献しています。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定しています。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験

前期は基礎的な力学の勉強会を行います。また、海洋構造物や陸上建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるために、自分たちでテーマを決めて小型模型実験を実施します。実験は学部祭にて公開します。

●着手条件

構造に興味があり、探究心旺盛な人を歓迎します。

コンクリート構造工学研究室

1366 室

Teaching Staff



教授
福井 剛

●研究室紹介

研究のこと：私たちの研究室では、建築構造および材料Ⅱの後半で学んだプレストレストコンクリート（以下PC）構造（オープンキャンパスで皆さんが乗って驚いていたあのコンクリートの板です）を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指して研究を進めています。PC構造は、①ひび割れが生じないために沿岸域においても耐久性が極めて高く、②30mを超える大スパン構造を作ることができるためにデザイン性に優れた建物を作ることが可能です。また③優れた復元性があるため耐震性にも優れています。これらの特性を活かして、東京スカイツリーの心柱や原子力発電所施設といった飛び抜けた高性能が要求される構造体や、2002FIFA ワールドカップや昨年行われた東京オリンピック施設といったデザイン性を求められる建物などに広く使われています。私たちの研究室での合言葉は、「研究成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」です。信頼性が高くシンプルで独創性に富んだ研究成果は、国や学会の設計規準に多く採用されており、対外的に高い評価を受けています。

研究室の雰囲気：堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であり、研究室では教員とゼミ生、卒研究生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。ただし、ここぞと言うときは真剣勝負です。

年間行事

- ①顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研究生、院生、教員と親睦を深めるために4月下旬に実施。
- ②夏合宿研究発表会：卒研究生、院生が行っている研究の経過を発表するために厳格な雰囲気の中9月初旬に実施。発表終了後は普段通りの無礼講タイム。
- ③実験打上げ：実験終了時に無事故と研究成果を祝うための行事。
- ④ほか：めでたいことなどがあれば適宜。

●ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組解析ソフトとファイバー法による断面解析ソフトの作成
- 2) 構造力学およびコンクリート構造の勉強会及び演習
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル（CAD、エクセル、パワーポイント）の修得

テーマ1)、2)は、それぞれ週1回教員が、テーマ3)は週2回大学院生が担当しています。ゼミ生にはこれらのテーマから2つ以上を選択してもらいます。3年次には受講しなければならない大切な専門科目が目一杯あるので、そちらにも十分

な時間が割けるよう配慮しています。

●卒業研究のテーマ

- 1) 圧着 PCaPC 部材のせん断抵抗機構
- 2) 長期荷重が PC 造建物の地震後の性能に及ぼす影響
- 3) RC および PC 部材のせん断終局強度式の提案
- 4) PC 有孔梁の合理的な設計法の開発
- 5) PC 造柱梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 6) プレキャスト PC 圧着継目の滑り破壊耐力に対する設計法の提案

上記の卒業研究の内、1) は実験を計画しています。苦勞は伴いますが体で感じる達成感はずばりです。2) ~ 6) は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれませんが、研究テーマ名だけではワクワク感がないかも知れませんが、君たちが、真剣にこれらのテーマに取り組むとはまります。

●着手条件

ゼミに欠席しないことと卒研に没頭することを約束できることを最優先条件とします。卒研に注ぎ込む時間を十分に確保できるように取得単位数が一定以上であるとさらに良し。研究内容と研究室の雰囲気に馴染めることを確認するために研究室訪問で院生や教員と話をしましょう。



写真1 PC梁のせん断破壊実験準備



写真2 夏合宿

建築構法研究室

1365 室

Teaching Staff



准教授
高橋 孝二

●研究室紹介

日本国内で震度7を記録した大地震（平成7年：阪神淡路大震災など）が、この30年足らずで実に5回も発生しています。まさに本国は地震活動期の真っ只中にあります。また、ここ最近では地球温暖化の影響とされる想定を遥かに超えた風雨により、数多くの災害が発生しています。これら自然災害に対する防災・減災技術の向上や発展への貢献は、海洋建築工学科の大きな使命の一つであります。

本研究室では、「地震に強い建築」を目的に、耐震構造としての要求性能が高い超高層建築物の構造設計や施工技術または免震・制震構造に関する研究を行います。また、研究室の取組の一つとして木構造も取り上げます。近年、国内の森林資源の有効活用や持続可能な開発目標（SDGs）への対応として中大規模木造建築物への期待が高まっていることから、木造建築の高層化実現のための研究にも取り組みます。

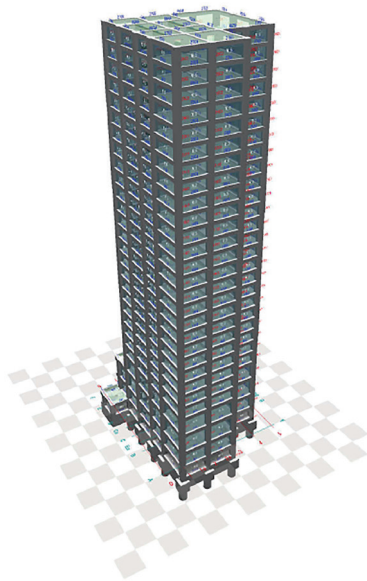
●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究や大学院での研究、卒業後に構造に関わる仕事をするための基礎となる知識を身に付けてもらいます。3年生で履修する構造解析や振動工学の知識をさらに深めてもらうため、平面フレームの構造解析や質点系の時刻歴応答解析の簡単なプログラミングを実施します。自分で実際にプログラムをすることにより、理解が深まりそれを発展させることにより卒論や修論の研究にも役立ちます。

●卒業研究のテーマ

卒業研究では、以下のようなテーマ例を上げるが、建築構造に関わるテーマなら学生自身で選定しても構わない。

- ・超高層鉄筋コンクリート造建築物の構造設計
- ・プレキャスト鉄



超高層鉄筋コンクリート造建築物の構造設計

- 筋コンクリート工法の構造性能
- ・免震、制震構造の設計および解析
- ・中大規模木造建築物の基礎研究

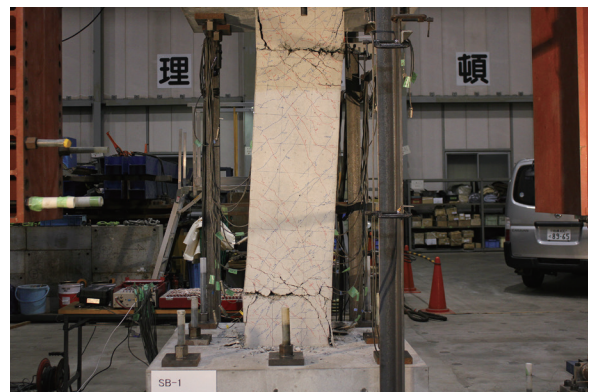
●着手条件

1年生、2年生で学んだ構造力学の講座や海洋建築実験が「おもしろいな」と思った学生なら問題ない。

将来、構造に関わる仕事（ハウスメーカー、ゼネコン、設計事務所等の構造部門）を目指そうと思っている学生を歓迎します。



プレキャスト部材



プレキャスト部材の構造実験

沿岸環境防災研究室

1335 室

Teaching Staff



教授
星上 幸良

●研究室紹介

本研究室では、「沿岸域での防災と環境保全の両立」を基本テーマとして、海岸付近の物理・自然環境と人との係わりについて考究することを目的としています。

そのため「現場を把握する」ことを重視し、様々なフィールドを観察し、地域を学び、物事の意味を理解することからはじめます。また、民間コンサルの経験を活かし、研究やワークショップを通じプレゼン能力やマネジメント力、課題解決力を鍛え、実社会で活躍できる人材育成を行います。さらに、地域や事業と連携した実際的な研究活動を通して、高度な専門性だけでなく、広い視野と客観性、バランス感覚を養います。

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、就活・進学のアドバイスに加えて、「ゼミ研」を通じ、卒業研究や実社会での活動に役立つ基礎的な素養を身に着けます。

- ・調査に参加し、現場の見方や環境問題を学びます
- ・広い視野と客観性を会得します
- ・コミュニケーション能力を向上させます
- ・バランス感覚と倫理観を育てます
- ・時間の使い方（マネジメント力）を学びます



フィールドワークの様子



沿岸域工学研究室との合同ゼミの様子

- ・プレゼン能力を鍛えます
- ・実環境に触れ、問題と課題を学びます
- ・防災、災害リスクについて正しく理解できます
- ・資格取得を支援します

●卒業研究のテーマ

国内外で課題を抱える沿岸域のフィールドを対象とし、以下のテーマで調査・研究を進めます。

【良好な環境保全を目指して】

- ・沿岸域での物理と環境に関する研究
- ・人為的要因による環境影響に関する研究
- ・ドローン等を活用した環境計測に関する研究

【安全安心な沿岸域を創造する】

- ・沿岸域での災害リスクに関する研究
- ・海岸保全の在り方や評価に関する研究
- ・沿岸の地域知合意形成に関する研究

●着手条件

沿岸の環境保全や防災に興味のある学生、将来、ゼネコンや調査会社、コンサルタントへの就職を志望する学生、海や沿岸に“愛”のある学生なら、誰でもゼミナール・卒研に着手できます。



震災復興状況調査写真



ドローンを活用した調査の様子



▲星上研
youtube
チャンネルは
こちら！



星上研 Instagram は
こちら！▶

HOSHIGAMIKEN_OFFICIAL

沿岸域工学研究室

1334 室

Teaching Staff

助教
野志 保仁特任教授
小林 昭男

●研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

●ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学ぶ
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学ぶ
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学ぶ
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学ぶ
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法を学ぶ
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ調査に参加できる
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになる
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題が学ぶ
- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供する

●卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。



ゼミ生歓迎会の様子（昨年度はできていません）



海岸環境の修復活動（福井県水島）

1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷

●研究室で挑戦したいこと

私たちの研究室は、新しいことに挑戦したいと考えることを推奨しています。実際に可能かどうかはわかりませんが、以下のことに挑戦したいと考えています。

- 1) 研究室の YouTube における全国の海浜の状況のアーカイブ作成（東南アジア諸国を対象とした JICA と共同の教材を作成済み）
- 2) クラウドファンディングへの挑戦
- 3) 研究室全体で行う知的ゲーム大会の開催（ゲーム自体は決まっています）

●着手条件

海岸地形や海浜環境の再生・修復、防災工学に興味があり、当研究室のゼミナールを受講希望する学生は、研究室説明会に必ず出席して、個別面談（基本的には研究室の所属学生を含む雑談と考えてください）を受けてください。受講条件は、特にありません。ただし、研究室の行事や研究活動、就職活動に支障のない十分な成績と単位数を取得していると、有意義な研究活動ができるかと思えます。大学院進学については、個別面談時に相談してください。

博士論文

+

修士論文

+

卒業論文・卒業設計

小林研究室

修士論文

- ◆服部立 デジタルファブリケーションを用いたオフグリッドモバイルハウスの設計提案
- ◆小山田駿志 地域特性を生かしたシティホールの提案～台東区のものづくりにおける創造思考を高める建築計画
- ◆鷹田知輝 ポストコロナの再開発事業における都市と建築の計画提案～築地市場跡地を計画地としたサステナブル・スマート・ウェルネスシティの提案

卒業論文・設計

- ◆伊東龍哉 HOT LINE～超車社会における生物構造を活用した大空間の提案
- ◆越原瑞樹 湘南茅ヶ崎の海との関係を考慮した複合施設
- ◆小林真子 谷に繰り出す～浜谷駅周辺の新たな都市導線と地下空間の提案
- ◆齋藤瞬汰 佃島のサステナブル・コミュニティ空間の提案
- ◆佐藤満秀 花がもっと身近なものに～廃棄予定の花に命を
- ◆佐藤大和 魅せる農業～郊外の農業に代わる都市での新しい農業の提案
- ◆田中日那子 月の引力～水の都広島における水上交通拠点計画
- ◆津下純也 地形で蘇る活気～健康と勾配への意識改革による地域活性化計画
- ◆長谷部悠 道の駅 龍縁～陰影を用いた浅草文化の接合
- ◆藤本篤紀 駅併用住宅と汚染土を利用した被災地の復興処置
- ◆増田悠功 歴史を超え、再び「繋ぐ」役割を～晴海区における晴美橋梁の空中公園化
- ◆三好将斗 自由なデザイン～デザインによる制御からの脱却
- ◆渡邊愛 想像と創造による実験的建築

桜井・寺口研究室

卒業論文

- ◆岩原萌絵 ウォーターフロントに立地するワーケーション施設の利点と課題
- ◆加藤祥 温泉地における水辺空間整備に関する研究
- ◆五江潤佑真 小型船舶を活用した災害支援に関する研究～東京湾内の災害拠点に適した海の実態把握
- ◆鈴木優志 港付近に展開している朝市の活性化に関する研究～朝市運営者に対するアンケート調査結果
- ◆鈴木薫香 灯台の保存と利活用に関する研究
- ◆田中颯 津波避難シェルターの整備実態に関する研究～全国の設置事例および製造会社について
- ◆露木葵 ウォーターフロントにおける電動キックボードの実用性に関する研究～国内シェアリングサービスの事例を対象として
- ◆戸枝玲奈 長距離フェリーの需要拡大に向けた取り組みに関する研究～日本長距離フェリー協会会員の船社に対するアンケート調査
- ◆樋口黎 ウォーターフロントの特性に配慮した公衆トイレの整備実態に関する研究～全国39都道府県を対象とした調査
- ◆丸山奈々美 海水浴場における津波避難対策に関する研究～年間来場者数10万人以上の海水浴場を対象とした調査
- ◆山田菜 わが国におけるブルーフラッグ認証ビーチの整備実態に関する研究～認証団体および認証ビーチを対象とした調査
- ◆佐藤友香 三陸沿岸の漁港空間の多目的利用に関する研究

佐藤研究室

修士論文

- ◆小林陽太 水面を利用した木造住宅密集地域の建替えの提案～横浜市神奈川区子安浜におけるプレファブ式水上住居の設計
- ◆中村美月 地域防災計画における土木構造物の建築的活用の提案～東京都目黒川の調節池と連携した防災拠点の設計
- ◆西村寿々美 離島の観光客誘致を目的とした複合リゾート施設の提案～伊豆大島における長期滞在型健康保養施設の設計
- ◆横畑佑樹 東京高速道路の高架橋再生計画～老朽化したインフラストラクチャーの環境装置としての提案
- ◆郎敬禹 中華人民共和国における養老リゾート施設の提案～陝西省瀾関地区における黄河の水運を活かした複合クルーズターミナルとしての設計
- ◆渡辺真理恵 宮城県石巻市鮎川浜における漁業訓練施設の設計～多世代に開かれた水産業の学び舎の提案

卒業論文・設計

- ◆有馬成美 空の最寄り駅～成田国際空港を起点に周辺地域を発展させる観光施設の設計
- ◆石本かえで 波打つ大階段
- ◆梅原久美子 新たな船出へ～漁網を用いて浦安の歴史を復刻する計画
- ◆上島萌夢 形で表す希望の光～歴史を復刻するシンボルの設計

- ◆川田通 農蜂のある暮らし～耕作放棄地を利用した段階的な住宅地の計画
- ◆小林功基 想像と創造～抽出したエレメントの建築化による恣意性を排除した設計手法の提案
- ◆関亮太 新陳代謝～環境装置を挿入した更新の提案
- ◆永野千紘・田畑輝 建築物の開口部と階層ごとの用途の関係性に関する研究～その1丸の内通いを対象とした調査項目及び調査方法
- ◆森山美波 奏でる解～高架下を利用した新たなライブハウスの音楽空間
- ◆太田優人 盛る新橋“郷山”～新橋駅周辺再開発の提案
- ◆山田遥南 生きる場所、選る場所～堆肥を用いた新たな甲子園の提案

山本研究室

卒業論文

- ◆足田寛幸 地域の水防力向上における水防団への女性参画促進に関する研究
- ◆大西一輝 水辺のユニバーサルツーリズム推進における観光案内所の取組みに関する調査研究
- ◆鹿志村隼多 ポートパークの実態把握及び放置艇問題に関する研究
- ◆勝目爽椰 東京都海上公園を利用する釣り人の放置ごみに関する調査研究
- ◆小林勇太 江東5区大規模水害時における広域避難に関する調査研究
- ◆齋藤康輝 水難事故防止に向けた釣り人の危険意識に関する基礎的研究～千葉県釣り人を対象として
- ◆富岡敏生 津波災害時における漁業集落の孤立化問題に関する調査研究
- ◆渡邊有斗 高齢者施設における避難確保計画の策定率向上に関する基礎的研究
- ◆坪川真久 河川防災ステーションの実態把握と地域住民の認知度に関する研究
- ◆及川一也 離島漁業再生支援交付金制度を活用した離島漁業再生に関する調査研究

親水工学研究室（菅原・畔柳）

修士論文

- ◆高橋大樹 港湾倉庫のリノベーション活用がもたらす周辺地域への波及効果と来訪者の周遊行動に関する評価分析
- ◆武田竜治 琵琶湖周辺の水郷集落における水路が「生活の質」向上に果たす効果に関する研究
- ◆山本陸人 江戸川区における地震水害時の避難対応力と曝露人口分布の関係に関する研究

卒業論文

- ◆植松百花 江東5区における大規模水害を想定した民間企業との一時避難協定の現状に関する研究
- ◆大野聖来 ウォーカー推進都市における施策内容の動向と水辺空間の評価に関する研究～滞在快適性等向上区域の24都市を対象として
- ◆岡田祐成 SNSの投稿から捉えた離島の心象風景に関する研究
- ◆小田瑞葵・葉師神慧人 沿岸地域の再編に向けた造船所の跡地利用に関する基礎的研究～その1全国の造船所の立地特性と変容
- ◆蛇子明日香 ～その2造船所跡地の利用状況と跡地利用の要件整理
- ◆遊佐町女鹿集落の湧水の利用管理にみる人と水との係わりに関する調査研究
- ◆高田寛樹 水害常襲水系に立地する文化財建造物にみる建築的対応に関する調査研究
- ◆高橋優太・望月柚 全国の舟板建築の分布状況と建築特性に関する研究
- ◆横山将弥 隅田川テラスの来訪者にみるコロナ禍での水辺空間の意識・評価に関する調査研究
- ◆宮下健太郎 全国のグラウンドワーク団体の活動実態と地域住民の水辺環境評価への影響に関する研究

居駒・相田研究室

修士論文

- ◆小川拓麻 MPS法を用いた薄肉弾性体を有する浮体のモデル構築に関する研究
- ◆城所秀丞 2浮体のギャップにおける水面挙動が波漂流力特性に与える影響に関する研究
- ◆高嶋実和 流れ中で回転する線状構造物の動的挙動特性に関する基礎的研究
- ◆竹尾知峻 2次元MPS法における数値波動水槽の開発及び係留浮体の波浪中応答解析に関する基礎的研究
- ◆藤島健英 垂直軸型風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン型浮体の動揺低減効果に関する基礎的研究
- ◆古川景菜 PW-OWC型波力発電装置における一次変換のピーク特性の変化とオリフィス負荷の関係に関する研究
- ◆野口隆幸 浮体式洋上太陽光発電を目的としたエアクッション型浮体の基本性能に関する基礎的研究

博士論文

+

修士論文

+

卒業論文・卒業設計

卒業論文

- ◆秋山洋斗 ムーンブル付きボンツーン浮体の運動応答特性に関する研究
- ◆寺崎哉人 粒子で構成した片持ち梁の自重による変位の動的解析に関する数値的研究
- ◆野村悠登 MPS法を用いた数値波動水槽のエネルギー減衰帯の性能に関する研究
- ◆森宮啓史 津波漂流物の衝突力に与える噴水の影響に関する実験的研究
- ◆桑田愛理 海面に固定されたPW-OWC型波力発電装置の一次変換性能に関する研究
- ◆今泉優作 避難開始地点と海岸との定量的関係を考慮した津波避難ルートに関する基礎的研究
- ◆栗田陸王 CFDを用いた一様流中の浮体式養殖用平面網地の流体力特性に関する研究
- ◆白石湧大 浮体の動揺計算におけるAIの導入に関する基礎的な研究

恵藤研究室

修士論文

- ◆鹿島瞳 弾性係留索を使用した浮体係留システムに関する基礎的研究

卒業論文

- ◆海老原主・菅原幹将 弾性係留索により係留された洋上風力発電施設の居住性能評価
- ◆大木誠也・北島大誠・木下龍太郎・新家裕登 SCRの挙動と土壌との相互作用に関する基礎的研究
～その1 SCRにおけるライザーの動的挙動解析
～その2 SCRにおけるライザーと土壌との相互作用
- ◆雄倉佐彰・野原さくら 超大型浮体に接続する弾性係留索の係留条件に関する基礎的研究
- ◆関口峻介・土本和人 ジャケット式海洋構造物の損傷に伴う振動特性変化に関する基礎的研究
- ◆田村直輝 東京湾における残存稚貝の成長過程の再現に関する基礎的研究
- ◆森田光奎・山名泰生 ジャケット式海洋構造物の層剛性の同定に関する基礎的研究
- ◆吉田健人 大規模災害時の建物倒壊による重傷者数の算定手法に関する基礎的研究

近藤研究室

卒業論文

- ◆岡崎征良 単一角柱のギャロッピング振動に関する数値解析
- ◆小松勇輝 単一円柱のインラインとクロスフロー振動に関する数値解析
- ◆佐々木啓敦 正方形タンク内の液面動揺解析
- ◆関勇也 直列2角柱のギャロッピング振動に関する数値解析
- ◆松本瑠美 入射角を有する正方形角柱の渦励振解析
- ◆安田郁実 直列2円柱の流力振動に関する数値解析
- ◆長谷川貴也 円筒形貯槽タンク内のスロッシング解析
- ◆利光通治 並列2円柱の渦励振解析

北嶋研究室

修士論文

- ◆北澤龍太郎 折返しブレースの局部座屈挙動と疲労特性に関する研究
- ◆國府田有加 2方向地震動を受ける滑り基礎構造物の地震応答性状に関する研究
～軸力変動と2方向相互作用の影響に関する検討
- ◆松浦昂汰 観測加速度記録に基づくRC造建物の応急危険度判定法に関する研究
～加速度記録による降伏変位と建物塑性率の推定方法
- ◆村上航太 等価線形化法による制震構造設計法に関する研究～制震建物に作用する外力分布を考慮した設計法

卒業論文

- ◆小林葵・水橋秀至・矢ヶ崎渉真 剛性および重量を偏心させた滑り基礎構造物の2方向振動台実験
～その1 試験体および実験概要
～その2 実験結果
- ◆小林智瑛・長瀬優斗 6層鋼構造立体骨組の振動台実験
～その1 試験体の概要
～その2 実験概要および実験結果
- ◆杉山浩隆・菅生一麻 折返しブレースの疲労特性に関する実験的研究
～その1 実験概要および漸増荷重実験結果
～その2 一定振幅荷重実験結果と疲労特性の検討
- ◆世良知可子 鉄骨造間柱制震建物のダンパー変位に関する検討
- ◆寺原剛希・山崎颯太 FMS合金を用いたレンスダンパーに関する実験的研究
～その1 研究目的および実験概要
～その2 実験結果および検討

- ◆山田遊耶・田村拓也 滑り基礎構造物の転倒限界に関する研究
～その1 試験体および実験概要
～その2 実験結果

福井研究室

修士論文

- ◆深谷勇介 梁中間ヒンジが生じるPC骨組の地震後たわみ評価手法の提案
- ◆宮原棕一 PC鋼材の付着がプレキャストPC部材のせん断抵抗機構に与える影響に関する実験的研究

卒業論文

- ◆石川天基・菊田大貴 GIR接合を用いた実大CLT耐力壁の性能確認試験
～その1 実験概要
～その2 実験結果および考察
- ◆柄澤大樹・吉田大和 PC骨組の梁スパン内ヒンジを回避するための補強方法に関する解析的研究
～その1 補強方法の提案及び解析概要
～その2 解析結果
- ◆周騰・須永知希 浜松駅旅客ホーム上家調査
～その1 建物概要
～その2 調査分析
- ◆高木翔・飯高京祐・新井哲朗 アンボンドPCaPC圧着梁のせん断破壊経過に関する考察
～その1 実験計画
～その2 実験結果の予測

星上研究室

卒業論文

- ◆高野樹太・福島康平 海水浴場におけるUAVを活用した監視方法に関する基礎的研究
～その1、～その2
- ◆井村彩乃・植松良平 千葉県九十九里沿岸における津波避難施設に関する基礎的研究
～その1、～その2
- ◆大川哲史・今野凌・菅又綾太 津波自主避難計画作成マニュアルの実用化に向けた基礎研究
～その1、～その2、～その3
- ◆菊地桂史・野口桃菜 砂礫浜海岸での漂着ゴミ回収効率に関する基礎的研究
～その1、～その2
- ◆小嶋宝・木幡幹哉 海浜利用者の津波避難に関する研究
～その1、～その2
- ◆三浦颯斗・鷲頭航平 UAVを用いた海水浴場の情報伝達手段に関する研究
～その1、～その2

沿岸域工学研究室（野志・小林）

博士論文

- ◆横田拓也 漂砂と飛砂の連続性を考慮した海浜変形予測モデルの構築

修士論文

- ◆高橋弘一朗 海浜変形に応じた植生帯の変化予測モデルの開発に関する研究

卒業論文

- ◆相川広将・平田拓海 溶融スラグの養分材としての利用の検討
～その1 波の作用下での溶融スラグの挙動に関する実験
～その2 溶融スラグが生物に与える影響に関する実験
- ◆岩井紫苑・高木陽菜 自由開放型スロープの円滑利用計画
～その1 霞ヶ浦美浦村の大山スロープを対象として
～その2 霞ヶ浦美浦村の大山スロープを対象として
- ◆熊田和真・佐久間和也・深津信太郎・露寄諒 角折海岸におけるはまなすの精実堤と11号ヘッドランド間での養浜後の海浜変形機構の解明
ビーチロックの形成メカニズムの解明のための現地調査
- ◆熊田和真・佐久間和也・深津信太郎・露寄諒 ガラス造粒砂を用いた砂浜の景観改善のための実験的研究
～その1 ガラス造粒砂を用いた二次元移動床模型実験
～その2 ガラス造粒砂を用いた摩擦試験
～その3 ガラス造粒砂を用いた砂浜の印象評価実験
- ◆野崎雅貴・田村真剛 干潟の海浜変形機構解明に関する基礎的な研究
～その1 剪断強さの提案
～その2 計算結果
- ◆松尾哲平 海岸管理におけるB/Cの検討
- ◆渡部海人 海水浴場マッチングアプリの開発に関する研究

小林研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆古角虎之介：土幹 建設残土を用いた都市の新しい姿、2021 年度日本建築学会大会（東海）建築デザイン発表会、2021.9
- ◆福田晃平：Architecture Is More 芸術に倣う設計手法の代替、2021 年度日本建築学会大会（東海）建築デザイン発表会、2021.9
- ◆山戸善伸：未成熟の遺産 住×遺産×植林×観光の交わる足尾銅山転換計画、2021 年度日本建築学会大会（東海）建築デザイン発表会、2021.9
- ◆服部立：3D プリンターによる仮設住宅の設計、第 65 回日本大学理工学部学術講演会、2021.12
- ◆小山田駿志：これからのシティホールの設計—利用者の知的生産性、創造思考を高める市庁舎の提案、第 65 回日本大学理工学部学術講演会、2021.12
- ◆鷹田知輝：新しい時代の再開発事業における都市と建築の計画提案、第 65 回日本大学理工学部学術講演会、2021.12

著書・執筆等

- ◆小林直明研究室：デジタルファブリケーション、日刊建設工業新聞、2021.07.08
- ◆間田真矢：MAMM HOUSE、ELLE DECOR JAPAN169号、2021.04
- ◆間田真矢：MAMM HOUSE、モダンリビング256号、2021.05
- ◆間田真矢：MAMM HOUSE、新建築 住宅特集 2022年4月号、2022.04
- ◆間田真矢：MAMM HOUSE、BOB MAGASINE206号 髪書房、2022.04
- ◆間田真矢：甲斐の家、ガーデン/ハウス、相模大野の Apartメント、ondo、居心地のいい家をつくる注目の設計士&建築家 100人の仕事 ADF Web Magazine、2021.02
- ◆間田真矢：ミンナノイエ、モノと空間のデザインを考える 武蔵野美術大学出版局、2021.04
- ◆間田真矢：ondo、階段から考える住宅設計 54 の事例から空間構成と詳細図を読み解く 彰国社、2022.07

作品等

- ◆間田真矢：MAMM HOUSE、用途 住宅/事務所、2020

所属学生の受賞等

- ◆山戸善伸：第 33 回千葉県建築学生賞 優秀賞、未成熟の遺産、千葉県建築家

- 協会、日本建築学会、千葉県建築士会、千葉県建築士事務所協会、2021.3
- ◆福田晃平、山戸善伸：POLUS 学生建築デザインコンペティション佳作、周郷住宅、2021.6
- ◆小山田駿志、古角虎之介、高橋朋、福田晃平：2021 年度日本建築学会設計競技 近畿支部入選、ヨセアツメ、2021.8
- ◆大木貴裕、小林真子、中泉拓己、森田優莉、山戸善伸：日本建築学会建築文化週間グランプリ 2021 銀茶会の茶席 原田祐季子賞、2021.8
- ◆小山田駿志、謝雨辰、鈴木晶美子、増田悠玖、渡邊愛：日本建築学会建築文化週間グランプリ 2021 銀茶会の茶席 風間喜一賞、木村知弘賞、2021.8
- ◆古角虎之介、小林真子、鷹田知輝：日本建築家協会 第 12 回 JIA・テスクチャレンジ設計コンペ 入選、雪やこんこ、2021.9
- ◆三谷翼空：建築学縁祭~ROOKIE 戦~100 選、渦状巡遊、2021.9
- ◆荒井基就：建築学縁祭~ROOKIE 戦~100 選、ビル×洞窟、2021.9
- ◆小山田駿志：JAPAN WOOD DESIGN AWARD2021 ウッドデザイン賞 2021、New Artistry Rest Area Project、2021.10
- ◆Maya MADA: Building of the Year 2022 Award nominate、Category: Educational Architecture、Tomonoki-Himawari Kindergarten、2022.1
- ◆Maya MADA: Building of the Year 2022 Award nominate、Category: House、Garden/House、2022.1

学外活動（講演・講義等）

- ◆小林直明研究室 + archi-office k+en 設計事務所：S 化学研究所プロポーザル、construction management、2021.12
- ◆服部立・小山田俊志：江津市モバイルハウスプロジェクト プロポーザル、2021.7
- ◆古角寅之助・小林真子・大木貴裕：地域社会にもづくりに貢献すること（大久保商店街無料休憩所「お休み処」、建築系学生団体 Natsuzemi、2021.8

学外活動（委員会活動等）

- ◆小林直明：日本建築学会・歴史的大規模木造宿泊施設の計画検討小委員会（委員）

桜井・寺口研究室

審査付論文

- ◆寺口敬秀、桜井慎一、斉藤征大：市町村連携による避難困難地区の解消に関する研究—平成 30 年 7 月豪雨被災地を対象として—、土木学会論文集 D3(土木計画学) Vol.76 No.5、pp.1417-1423、2021.4.20
- ◆鷹島充寿、桜井慎一：開発行為に伴い設置される調整池の多目的利用に関する研究—調整池諸元情報および開発指導要綱の分析—、日本建築学会計画系論文集 第 86 巻 783 号、pp.1475-1483、2021.5.30

口頭発表・ポスター発表

- ◆寺口敬秀、桜井慎一、関口潤耶：大規模津波防潮堤に対する宿泊施設からの評価—岩手県および宮城県沿岸を対象として—、土木学会、土木計画学研究・講演集 Vol.63、講演番号 P126、2021.5.24
- ◆寺口敬秀、桜井慎一、牛輿理子：河川空間における営業活動の実態および効果・課題に関する研究—河川敷地占用許可を受けた事例を対象として—、土木学会、土木計画学研究・講演集 Vol.63、講演番号 P211、2021.5.24
- ◆海老原碧、桜井慎一、寺口敬秀：離島振興に寄与するクルーズ船寄港の効果と課題に関する研究、日本沿岸学会研究討論会 2021 講演概要集 No.33、講演番号 5-3、2021.6
- ◆寺口敬秀、桜井慎一、サカイ花、中田佳宏：海上ウォータパークの整備実態と効果に関する研究—御前崎海水浴場と勝浦中央海水浴場を対象として—、日本沿岸学会研究討論会 2021 講演概要集 No.33、講演番号 13-3、2021.6
- ◆小出将貴、桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：港湾空間の一般開放に関する研究—市民の利用促進を目的に開放された事例を対象としたアンケート調査—、日本沿岸学会研究討論会 2021 講演概要集 No.33、講演番号 13-4、2021.6

- ◆小出将貴、桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：港湾空間の一般開放に関する研究—東日本における市民向け施設の立地状況—、日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 2021（海洋建築）、pp.3-4、2021.7.20
- ◆樋口黎、桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：ウォーターフロントの特性に配慮した公衆衛生施設の整備実態に関する研究、日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 2021（海洋建築）、pp.5-6、2021.7.20
- ◆山田匠人、桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：ウォーターフロントの空間特性を活用したサイクリング環境整備に関する研究、日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 2021（海洋建築）、pp.7-8、2021.7.20
- ◆露木葵、丸山奈々葉、桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：ウォーターフロントにおける公園のバリアフリー整備状況に関する研究—ユニバーサルデザイン 2020 選定公園と選定外公園の現状比較—、日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 2021（海洋建築）、pp.9-10、2021.7.20
- ◆岩原萌絵、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：ウォーターフロントに立地するワーケーション施設の整備実態に関する研究—沖縄県を対象として—、日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 2021（海洋建築）、pp.11-12、2021.7.20
- ◆五江潤佑真、桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：通勤・通学で利用されている水上交通の実態把握に関する研究、日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 2021（海洋建築）、pp.13-14、2021.7.20
- ◆海老原碧、桜井慎一、寺口敬秀：「海の駅」の登録による効果と課題に関する研究、日本建築学会大会（東海）学術講演梗概集 2021（海洋建築）、pp.15-16、2021.7.20
- ◆鈴木凜香、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：灯台の多目的利用の促進に関する研究—灯台 50 選と北海道の灯台を対象として—、日本建築学会大会（東海）

教員研究業績 研究室活動業績

学術講演梗概集 2021 (海洋建築), pp.17-18, 2021.7.20

- ◆ 桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：水辺のゴミ問題解決にスゴ GOMI が果たす役割に関する研究、日本建築学会大会 (東海) 学術講演梗概集 2021 (海洋建築)、pp.19-20, 2021.7.20
 - ◆ 田中颯、桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：津波避難シェルターの整備実態と普及促進に関する研究、日本建築学会大会 (東海) 学術講演梗概集 2021 (海洋建築)、pp.41-42, 2021.7.20
 - ◆ 佐藤友香、桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：東京湾内のマリナーや漁港における津波対策に関する実態—東日本大震災から 10 年の変化—、日本建築学会大会 (東海) 学術講演梗概集 2021 (海洋建築)、pp.43-44, 2021.7.20
 - ◆ 長澤敏樹、桜井慎一、寺口敬秀：観光地における観光客の津波避難対策に関する研究—中部・近畿・四国地方の浸水想定区域内にある観光施設を対象として—、日本建築学会大会 (東海) 学術講演梗概集 2021 (海洋建築)、pp.45-46, 2021.7.20
 - ◆ 寺口敬秀、桜井慎一、海老原碧：短時間で到達する津波に対する日本海側の自治体の対応に関する研究—山形県・新潟県・富山県・石川県を対象とした調査—、日本建築学会大会 (東海) 学術講演梗概集 2021 (海洋建築)、pp.47-48, 2021.7.20
 - ◆ 鷹島充寿、桜井慎一、寺口敬秀、海老原碧：水害対策としての公共貢献による優遇措置に関する研究—民間事業者に対するアンケート調査—、日本建築学会大会 (東海) 学術講演梗概集 2021 (都市計画)、pp.743-744, 2021.7.20
 - ◆ 小出将貴、桜井慎一、寺口敬秀：防波堤の多目的利用に関する研究—北海道・本州における利用事例の実態調査—、令和 3 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.567-568, 2021.12.1
 - ◆ 鈴木優志、桜井慎一、寺口敬秀、小出将貴：漁港付近に展開している朝市に関する研究—朝市運営者に対するアンケート調査結果—、令和 3 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.569-570, 2021.12.1
 - ◆ 樋口黎、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：ウォーターフロントの特性に配慮した公衆トイレの整備実態に関する研究—東日本 12 都県を対象とした調査—、令和 3 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.571-572, 2021.12.1
 - ◆ 山田菜、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：ブルーフラッグ認証ビーチの整備実態に関する研究—認証団体・FEE Japan を対象とした調査—、令和 3 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.573-574, 2021.12.1
 - ◆ 五江淵佑真、桜井慎一、寺口敬秀、山田匠人：小型船舶を活用した災害支援に関する研究—東京湾における孤立化危険地域の抽出—、令和 3 年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、pp.575-576, 2021.12.1
- 所属学生の受賞等 —————
- ◆ 唐崎雄亮：日本沿岸域学会論文奨励賞、鉄道線路が津波避難に及ぼす影響に関する研究、日本沿岸域学会、2021.7

- ◆ 小出将貴：日本沿岸域学会 2021 年研究討論会優秀講演表彰、港湾空間の一般開放に関する研究—市民の利用促進を目的に開放された事例を対象としたアンケート調査—、日本沿岸域学会、2021.11
- ◆ 海老原碧：日本沿岸域学会 2021 年研究討論会優秀講演表彰、離島振興に寄与するクルーズ船寄港の効果と課題に関する研究、日本沿岸域学会、2021.11
- ◆ 佐藤友香：日本建築学会大会学術講演会若手優秀発表賞、東京湾内のマリナーや漁港における津波対策に関する実態—東日本大震災から 10 年の変化—、日本建築学会海洋建築委員会、2022.1

————— 学外活動 (講演・講義等) —————

- ◆ 桜井慎一：津波避難の課題、2021 年度日本建築学会大会 (東海) 海洋建築部門研究協議会「巨大津波から 10 年～防潮堤とまちづくり～」、2021.9
- ◆ 寺口敬秀：教訓を後世に伝承する津波碑の保存整備と利活用、第 29 回海洋工学シンポジウム、2022.3

————— 学外活動 (委員会活動等) —————

- ◆ 桜井慎一：船橋市・開発審査会 会長
- ◆ 桜井慎一：船橋市・まち・ひと・しごと創生懇話会 委員
- ◆ 桜井慎一：館山市・建設工事総合評価委員
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会 代議員
- ◆ 桜井慎一：日本沿岸域学会 理事
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会 幹事
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会・海洋建築津波等防災小委員会 主査
- ◆ 桜井慎一：日本建築学会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員
- ◆ 寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆ 寺口敬秀：日本建築学会・海洋建築津波等防災小委員会 幹事
- ◆ 寺口敬秀：日本建築学会・卒業論文等顕彰事業委員会 委員
- ◆ 寺口敬秀：日本建築学会・津波に対する沿岸まちづくり検討ワーキンググループ 委員

————— 研究助成・受託研究 —————

- ◆ 桜井慎一：日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究 (C)、東日本におけるクルーズ観光活性化のための新たな寄港地選定と誘致方策の検討
- ◆ 桜井慎一・寺口敬秀：委託研究、国土交通省関東運輸局、小型船舶を使用した災害用支援物資等輸送における海の駅及び防災船着場の活用可能性の調査
- ◆ 寺口敬秀：研究奨励寄付金、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所、三陸沿岸の漁港ストックと水上飛行機を活用した「水産観光」の整備に関する研究

佐藤研究室

————— 審査討論文 —————

- ◆ Shinji Sato, Ryo Deyama: FLOATING AUTOMATED FACTORY SYSTEM FOR EFFECTIVE UTILIZATION OF SEABED RESOURCES AND REDUCTION OF GREENHOUSE GAS EMISSIONS, International Journal of GEOMATE, Notification of paper adoption decision, 2021.3

————— 口頭発表・ポスター発表 —————

- ◆ 中村正基、佐藤信治、海抜 0メートル地帯水設計画、日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海)、pp.146-147, 2021.9
- ◆ 藤田大輝、佐藤信治、蘇る器 東京産の建材を用いた設計より、日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海)、pp.266-267, 2021.9
- ◆ 篠原健、佐藤信治、鎌倉市長谷地区における津波避難施設の提案、日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海)、pp.276-277, 2021.9
- ◆ 黄起範、佐藤信治、インドネシア共和国における水上交通を活用した首都移転計画の提案 木質資源を活かした環境配慮型の複合庁舎の設計、日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海)、pp.306-307, 2021.9
- ◆ 神林慶彦、佐藤信治、「たまり」の上に立つ、日本建築学会大会学術講演梗概集 (東海)、pp.350-351, 2021.9

- ◆ 山本壮一郎、佐藤信治、北極点における浮体式活動拠点の提案 環境配慮型ホテルを併設した国際研究施設の設計、日本建築学会大会・建築デザイン発表会梗概集、pp.354-355, 2021.9
- ◆ 佐藤信治・川久保智康、レーザー測量器による鹿島神宮参道の空間測量 その 1 平面図の作成について、日本建築学会大会・大会学術発表会梗概集、pp.1075-1076, 2021.9
- ◆ 川久保智康・佐藤信治、レーザー測量器による鹿島神宮参道の空間測量 その 2 断面図の作成について、日本建築学会大会・大会学術発表会梗概集、pp.1077-1078, 2021.9
- ◆ 佐藤信治、藤田大輝、渡辺真理恵、川田遥、西辻優世、山田遙南、石黒敬太、尾沢圭太：信濃川流域の習慣化された避難経路から考えるまちづくり、第 65 回、日本大学理工学部学術講演会都市・交通計画部会 pp.203-204, 2021.12
- ◆ 西村寿々美・佐藤信治：伊豆大島におけるクアオルトを用いた医療拠点病院の設計、第 65 回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.489-490, 2021.12
- ◆ 佐藤信治・横畑佑樹、東京高速道路高架橋の再生計画、第 65 回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.491-492, 2021.12
- ◆ 渡辺真理恵・佐藤信治、これからの水産業を担う育成施設の設計—宮城県石

教員研究業績 研究室活動業績

巻市鮎川浜での水産学校の設計、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.493-494、2021.12

- ◆中村美月・佐藤信治・東京都内暗渠を活用した新たな都市開発手法の提案、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.495-496、2021.12
- ◆神林慶彦・佐藤信治、横浜の水上バスターミナル計画、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.497-498、2021.12
- ◆関亮太・佐藤信治、市の里山と暮らす一銀座地区の東京高速道路を再活用した都市型農業網の構築、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.499-500、2021.12
- ◆上島萌夢・佐藤信治、歴史を復刻するシンボルの設計、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.501-502、2021.12
- ◆小林陽太・佐藤信治、水面を利用した木密地域の更新の提案、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.503-504、2021.12
- ◆佐藤信治・小林功基、チバニアン博物館一市原市田淵における千葉セクションの保存並びに活用計画、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.505-506、2021.12
- ◆川田遥・佐藤信治、生産緑地2022年問題を活かした住宅提案、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.507-508、2021.12
- ◆有馬成美・佐藤信治、千葉県の歴史的名所を国際的に発展させる観光施設設計、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.509-510、2021.12
- ◆森山美波・佐藤信治、ライブハウスの経営形態を見直し、新たな音楽空間の提案、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.511-512、2021.12
- ◆佐藤信治・水口峰志、自己組織化の理論に基づいた月面基地のモジュラーコーディネーション、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.549-550、2021.12
- ◆佐藤信治・梅原久美子、一度は捨てた海を中心に活気ある街へ、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.551-552、2021.12
- ◆小川香奈・佐藤信治、町工場を産業遺産へ、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.553-554、2021.12
- ◆佐藤信治・石本かえで、ローカル線再起による石川県観光発展施策、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.555-556、2021.12
- ◆山田遙南・佐藤信治、生活に溶け込む新たな甲の場の設計、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.557-558、2021.12
- ◆佐藤信治・川久保智康・田畑輝・永野千、大手町・丸の内・有楽町地区まちづくりに関する調査、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.559-560、2021.12
- ◆中村正基・佐藤信治、防災機能を持った駅舎の提案、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.561-562、2021.12
- ◆佐藤信治・太田優人、日本の食文化を次世代に継承する建築の提案、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.563-564、2021.12
- ◆郎敬禹・佐藤信治、中華人民共和国における養老リゾートコミュニティ計画、第65回、日本大学理工学部学術講演会海洋建築部会 pp.565-566、2021.12

著書・執筆等

- ◆編者：海洋建築デザイン教材研究会 著者：佐藤信治、他5名と共著、新訂第3版 空間デザインを学ぶ、(株)DTP出版、pp.03-22、28、32、51、59、65-69、71-74、103-114、2021.9

作品等

- ◆佐藤信治、アトリエK、川久保智康建築設計事務所、中国建筑技術集団有限

公司：江山经济开发区城南产业邻里中心建筑方案设计

所属学生の受賞等

- ◆松井良太：建築系大学住宅課題優秀作品展作品展示：水と共に生きる集合住宅、第21回住宅課題賞2021、東京建築士会他、2021.10.28～11.10
- ◆安藤大翔：最優秀賞受賞、時と寄り添う海の駅、VectorWorks 学生作品コンテスト - A&A、2021、0901
- ◆藤田大輝：2位 秋吉浩気賞、蘇る器 - 東京産の建材を用いた設計より - 「完全オンラインで参加可能な新しい卒業設計展の開催」、BEAVER、2021.4.18
- ◆藤田大輝：52回毎日・DAS 学生デザイン賞 大学生の部：建築部門 入賞、蘇る器 - 東京産の建材を用いた設計より - 、2021.5
- ◆藤田大輝、渡辺真理恵：支部入選、ミニジーズ-暗渠と17の提案一、日本建築学会設計競技「まちづくりの核として福祉を考える」、2021.7
- ◆神林慶彦：八木祐理子賞、「たまり」の上に立つ、全国合同建築卒業設計展「卒、21」、2021.2
- ◆中村正基：総合資格賞、海抜0メートル地帯水没計画 - 東京東部低地における川とともに生きる100年後の住まい方 - 、全国合同建築卒業設計展「卒、21」、2021.2
- ◆中村美月、横畑佑樹、中村正基：佳作、IKEBUKURO NEO-DEPARTMENT STORE、新しい文化国際都市の建築、第9回ヒューリック学生アイデアコンペ、2021.10.17
- ◆中村美月、横畑佑樹、神林慶彦、小川香奈、安藤大翔、山田莉央：特別賞（次点）、時刻む、石巡る大谷 - 一まちのかけらとして生き続ける大谷石の一生、日本建築学会関東支部第22回提案競技「美しいまちをつくる、むらをつくる」、日本建築学会関東支部、2021.12.27
- ◆藤田大輝、渡辺真理恵、山田遙南、川田遥、西辻優世、石黒敬太、尾辻圭太：最優秀賞、ころろ繕う一習慣化した防災意識から考えるまちづくり一、複合災害と新たな都市像、複合災害と新たな都市像 U30 復興デザインコンペ、東京大学復興デザイン研究体、2021.11.27
- ◆藤田大輝：最優秀賞 SNOW 賞、蘇る器 - 東京産の建材を用いた設計より - 、歴史的空間再編コンペティション2021（第9回）「歴史的空間の再編」、歴史的空間再編学生コンペ実行委員会、金沢市、2021.11.21
- ◆中村正基、神林慶彦、古角虎之介（小林研）、山戸善伸（小林研）：最優秀賞 SNOW 賞、都市の商住共棲 - 商店街における商店と住宅の新たな暮らし - 、歴史的空間再編コンペティション2021（第9回）「歴史的空間の再編」、歴史的空間再編学生コンペ実行委員会、金沢市、2021.11.21

学外活動（委員会活動等）

- ◆(社)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会 委員
- ◆(社)日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(社)日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会 審査委員
- ◆(社)東京建築士会
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会 委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会 委員
- ◆秋田産業サポータークラブ 幹事
- ◆秋田産業サポータークラブ 地域連携観光ワーキング 主査
- ◆秋田産業サポータークラブ 秋田杉活用ワーキング 主査
- ◆(社)海洋環境創生機構運営委員会 委員
- ◆秋田県能代市 産業振興アドバイザー
- ◆秋田県 登録文化財所有者の会 幹事

山本研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆落合淳貴、山本和清、永井勇輝、宮崎渉：洪水・内水氾濫等の水害発生時における高齢者の垂直避難に関する一考察、第24回日本福祉のまちづくり学会全国大会研究発表会、2021.10

学外活動（講演・講義等）

- ◆津波災害時を想定した避難行動要支援者（高齢者）の避難計画に関する

研究について、令和3年度 日本大学校門建築会 海洋建築系研究懇談会、2021.12.20

学外活動（委員会活動等）

- ◆千葉県・千葉県建設工事総合評価委員会 委員
- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会 監事
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム・江戸前ブランドPT メンバー

教員研究業績
研究室活動業績

親水工学研究室（菅原・畔柳）

審査付論文

- ◆田中孝登、畔柳昭雄、菅原遠：全国の港湾地域における貯木場水面の立地・空間特性と都市的転用事例に見る水域陸域の利用実態に関する研究、沿岸域学会誌 34 (2) pp.55-64、2021.9
- ◆長谷川演恒、畔柳昭雄：水門内水域の活用に向けた都市住民の水辺意識 - 亀島川・天王洲逢河周辺住民を対象として -、環境情報科学学術研究論文集 Vol.35 pp.7-12、2021.12
- ◆田島佳征、畔柳昭雄：「海離れ」記事への書き込みコメントから見た海水浴に対する要因把握、環境情報科学学術研究論文集 Vol.35 (研究報告) pp.245-249、2021.12

口頭発表・ポスター発表

- ◆孫旭光、畔柳昭雄：中国青島の都市臨海部の水辺環境に対する来訪者の意識・行動に関する調査研究 - その1 青島市の海岸地区を訪れる来訪者の居住地とアクセス手段 -、2021年度日本沿岸域学会研究討論会 9-4、2021.6
- ◆畔柳昭雄、孫旭光：中国青島の都市臨海部の水辺環境に対する来訪者の意識・行動に関する調査研究 - その2 青島市の海岸地区を訪れる目的と水辺評価 -、2021年度日本沿岸域学会研究討論会 9-5、2021.6
- ◆今井晴貴、菅原遠、畔柳昭雄：水と緑の公私計画論に関する研究 - その20 東久留米市落合川の湧水保全活動に見る住民組織と行政の係わりに関する研究 -、日本建築学会大会(東海) 学術講演会 pp.1561-1562、2021.9
- ◆武田竜治、菅原遠、畔柳昭雄：水と緑の公私計画論に関する研究 - その21 琵琶湖周辺の水郷集落における水利用・管理の実態に関する調査研究 -、日本建築学会大会(東海) 学術講演会 pp.1563-1564、2021.9
- ◆武田竜治、畔柳昭雄、菅原遠：琵琶湖周辺の水郷集落における家庭用水・排水の特性に関する研究 - コミュニティ水環境カルテ掲載の集落を対象として -、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-27 pp.531-532、2021.12
- ◆高橋大樹、畔柳昭雄、菅原遠：港湾倉庫リノベーション活用による魅力創出と地域の土地利用の変遷に関する調査研究、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-28 pp.533-534、2021.12
- ◆宮下健太郎、菅原遠：全国のグラウンドワーク団体の活動実態に関する研究、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-29 pp.535-536、2021.12
- ◆高橋優太、望月柚、菅原遠：全国の舟板建築の分布状況と建築特性に関する研究、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-30 pp.537-538、2021.12
- ◆高田寛樹、畔柳昭雄、菅原遠：水害常襲河川流域における文化財の立地と分布に関する研究、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-31 pp.539-540、2021.12
- ◆小田瑞葵、業師神慧人、菅原遠：沿岸地域の再編に向けた造船所の跡地利用に関する調査研究 - その1 全国の造船所の分布状況と立地特性に着目して -、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-32 pp.541-542、2021.12
- ◆業師神慧人、小田瑞葵、菅原遠：沿岸地域の再編に向けた造船所の跡地利用に関する調査研究 - その2 全国の造船所跡地の利用状況に着目して -、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-33 pp.543-544、2021.12
- ◆横山将弥、長谷川演恒、畔柳昭雄：隅田川テラス利用者の水辺環境評価に関する研究 - その1 護岸形態に応じた利用状況に着目して -、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-34 pp.545-546、2021.12
- ◆長谷川演恒、横山将弥、畔柳昭雄：隅田川テラス利用者の水辺環境評価に関する研究 - その2 利用者の居住地から見るテラスの効果 -、令和3年度日本大学理工学部学術講演会予稿集 J-35 pp.547-548、2021.12
- ◆今井晴貴、畔柳昭雄：東久留米市を流下する落合川に見る水辺の景観構成要素の把握、第18回(2021)環境情報科学ポスターセッション、2021.12
- ◆長谷川演恒、畔柳昭雄：隅田川の親水整備を望む住民意識、第18回(2021)環境情報科学ポスターセッション、2021.12
- ◆杉山隼、畔柳昭雄：江戸期の文化から見る水辺の文化継承機能、第18回(2021)環境情報科学ポスターセッション、2021.12
- ◆岡田祐成、畔柳昭雄：SNSの投稿から捉えた離島の心象風景に関する研究、(2021)環境情報科学ポスターセッション、2021.12
- ◆大谷瑛史、市川尚紀、武田竜治、菅原遠：滋賀県琵琶湖周辺に点在する水郷集落の空間構成と水利用形態に関する調査研究 - 高島市上小川集落を中心として -、近畿大学工学部研究報告 No.55、pp.7-13、2022.2
- ◆菅原遠、畔柳昭雄：気候変動への適応を意図した浮体式建築物の計画的背景

と建設動向、第29回海洋工学シンポジウム OES29-082、2022.3

- ◆畔柳昭雄、増田光一、相田康洋、居駒知樹、江頭満正、戎崎俊一：突発性水害発生に対応した FLOATING CABIN の研究開発、第29回海洋工学シンポジウム OES29-040、2022.3
- ◆山口順子、木下浩作、畔柳昭雄、増田光一：医療浮体と医療コンテナモジュールの併用が災害時病院船医療支援機能を最適化する、第27回日本災害医学学会パネルディスカッション、2022.3

著書・執筆等

- ◆菅原遠：水上都市は「夢」から「解決策」へ - 沖繩海洋博「アクアポリス」から半世紀 -、リコー経済社会研究所、2021.7 (取材協力)
- ◆菅原遠：地域価値を高める新たな水辺の風景づくり - ポストコロナ社会における水辺の賑わいづくり「mizube bar」プロジェクト -、桜建会報 No.121 p.3、2021.7 (執筆)
- ◆菅原遠：「mizube bar」プロジェクトを契機とした新たな水辺の居場所づくり、特定非営利活動法人 江東区の水辺に親しむ会 会報「みずべ」38号、2021.12 (執筆)
- ◆菅原遠：もしもで考える…なるほど! なつくと塾、BSフジ、2022.3 (出演)
- ◆菅原遠：寄生の現場から語り合う ZOOM 会議：都市寄生デザイン会議、アート&スタック運動2 コロナ危機と文化的歓楽街のまちづくり、pp.8-15、2022.3 (執筆)
- ◆畔柳昭雄：海と建築 - なぜつくる? どうつくられてきたか -、水曜社、2021.12 (著書)
- ◆畔柳昭雄：新年あいさつ、建設タイムズ、2022.1
- ◆畔柳昭雄：新年挨拶、日刊建設工業新聞、2022.1

作品等

- ◆菅原遠：mizube bar、東京ミズマチ 1st Anniversary、2021.6
- ◆菅原遠：大岡川流域リサーチ - 横浜のまちなかを有機的に繋ぐ川・建築・生活 -、黄金町バザール 2021 サイドバイサイドの作り方、2021.10
- ◆菅原遠：mizube bar、隅田川マルシェ@清洲橋、2021.10
- ◆菅原遠：mizube bar、すみだがわオープンテラス、2021.10 ~ 11
- ◆菅原遠：mizube bar、FOOD ART STATION、2021.11
- ◆菅原遠：mizube bar、東京ミズマチ、2021.12 ~ 2022.3

所属学生の受賞等

- ◆川口直也、菅原遠、畔柳昭雄：日本沿岸域学会「論文賞」、東京都江東5区における民間企業の立地特性と水害対策の動向に関する研究、2021.8 (2020年度卒業生の受賞)
- ◆野中康太郎：一般社団法人日本建築学会「優秀修士論文賞」、特定都市河川流域に位置する立地適正化計画区域の耐水化に関する研究、2021.8 (2020年度修士の受賞)
- ◆業師神慧人：第65回日本大学理工学部学術講演会「優秀発表賞」、沿岸地域の再編に向けた造船所の跡地利用に関する調査研究 - その2 全国の造船所跡地の利用状況に着目して -、2022.1

学外活動(講演・講義等)

- ◆菅原遠：都市・地方都市における水辺の賑わいづくり - 水辺の賑わいを支える「公」と「私」 -、法政大学大学院政策創造研究科「都市空間論」、2021.5
- ◆菅原遠：八千代広域公園計画 最終報告、八千代市役所、2021.6
- ◆菅原遠：mizube bar project- アフターコロナ社会における水辺の賑わいづくりと教育現場としての水辺 -、水辺で乾杯 2021 前夜祭、2021.7
- ◆菅原遠：地域包摂型まちづくりの事例概観、日本建築学会大会(東海) 研究懇談会「縮小社会における地域包摂型まちづくりの在り方」、2021.9
- ◆菅原遠：mizube bar project- アフターコロナ社会における水辺の賑わいづくり -、都市寄生デザイン会議、2021.10
- ◆菅原遠：ディスカッション登壇、神田ウォーカーブル研究会シンポジウム、2022.3
- ◆畔柳昭雄：第1部 海水浴からのまちづくり- 療養から健康づくりへ、そして余暇活動へ - 第2部 親水まちづくり - 人と水との係わり -、法政大学大学院政策創造研究科 2021年度第II期まちづくり事例研究、2021.6

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆畔柳昭雄:親水まちづくり-人と水との係り-、水都東京未来会議 第5回リレーセミナー、2021.7
- ◆畔柳昭雄:水屋・水塚-水防の知恵と住まい、住空間史学研究会、2021.9
- ◆畔柳昭雄:突発性水害発生に対応した FLOATING CABIN の開発、国際津波防災学会、招待講演、2021.11
- ◆畔柳昭雄:佐渡加茂湖の可能性、佐渡島観光フォーラム、2021.12

学外活動(委員会活動等)

【助教・菅原遼】

- ◆日本建築学会・水と緑の公私計画論とマネジメント小委員会 幹事
- ◆日本建築学会・海洋建築ローカルエリアネットワーク小委員会 幹事
- ◆日本建築学会・地域包摂型まちづくり【若手奨励】特別研究委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員
- ◆土木学会・景観・デザイン研究編集小委員会 委員
- ◆一般社団法人水辺荘 理事

【特任教授・畔柳昭雄】

- ◆国際海洋科学技術協会 理事
- ◆国際海洋建築聯盟 会長
- ◆日本建築学会・水と緑の公私計画論とマネジメント小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築グローバルネットワーク小委員会 委員
- ◆千葉県魅力ある建設事業推進協議会 会長
- ◆(一社)水の安全保障戦略機構・水都東京未来会議 議長

- ◆青島理工大学都市計画学院 /iSMART 客員教授
- ◆佐渡 MICE 協議会 顧問

研究助成・受託研究

- ◆菅原遼、畔柳昭雄:研究奨励寄付金、公益財団法人日本都市計画学会、地方都市・農村の水辺の公私計画論の構築に向けた実証的研究
- ◆菅原遼:研究奨励寄付金、一般財団法人窓研究所、農村・漁村地域における木造船の建築活用から見た舟板建築文化圏の解明
- ◆菅原遼:研究奨励寄付金、一般財団法人日本グラウンドワーク協会、隅田川プロムナードの環境改善に向けた河川環境の保全・活用に関する実践的取り組み
- ◆泉山聖威、菅原遼、中島伸:研究奨励寄付金、千代田区、アフターコロナの「神田ウォーターカプル」実現に向けた調査・アクション・提案
- ◆畔柳昭雄、菅原遼:受託研究、佐渡市、佐渡島沿岸部の水辺環境の価値向上のための調査研究
- ◆菅原遼:受託研究、株式会社社長大、港湾地域における造船所の跡地活用に関する研究
- ◆菅原遼:受託研究、東武鉄道株式会社、隅田公園及び北十間川の水辺空間活用に関する調査研究
- ◆畔柳昭雄:科学研究費・基盤研究(C)、水害常襲地域の水防建築に見る「深く」構法に関する調査研究
- ◆居駒知樹、畔柳昭雄:研究奨励寄付金、戸田育英財団、東京湾中央防波堤埋立地と周辺海域の今後の活用に関する研究

居駒・相田研究室

審査付論文

- ◆Tomoki Ikoma, Lei Tan, Satsuya Moritsu, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "Motion characteristics of a barge-type floating vertical-axis wind turbine with moonpools," Ocean Engineering, 230, 109006, Elsevier, 2021.
- ◆Lei Tan, Liang Cheng and Tomoki Ikoma, "Damping of piston mode resonance between two fixed boxes," Physics of Fluids, 33, 062117, 2021. (SCI, peer-reviewed)
- ◆Lei Tan, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida, and Koichi Masuda, "Mean Wave Drift Forces on a Barge-Type Floating Wind Turbine Platform with Moonpools," Journal of Marine Science and Engineering, 9, 709, 2021.
- ◆惠藤浩朗、鹿島瞳、居駒知樹:弾性係留システムの係留条件の変化に伴う大型石炭貯蔵浮体の運動応答特性、土木学会論文集B3(海洋開発)77(2)p.961-966、2021.6
- ◆Hiroaki Eto, Hitomi Kashima, Ryo Sekiguchi, Yudai Suzuki, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda: A parametric study on the motion response of large-scale floating structure moored by elastic mooring lines, Proceedings of ISOPE2021, TPC-0294, 2021.6
- ◆Hiroaki Eto, Miwa Takashima, Daiki Kono, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda: A Fundamental Study on Dynamic Behavior of Small Floating System with SLWR in Regular Waves, Proceedings of the Thirty-first (2021) International Ocean and Polar Engineering Conference (ISOPE), Rhodes, Greece, TPC-0413, 2021.6
- ◆Lei Tan, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "A two-dimensional numerical study of radiation of piston mode fluid resonance in a narrow gap," Proceedings of the Thirty-first (2021) International Ocean and Polar Engineering Conference (ISOPE), Rhodes, Greece, 20-25 June, pp. 1680-1686, 2021.
- ◆Lei Tan, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "Mean Wave Drift Force on a Barge-Type Floating Wind Turbine With Moonpools," Proceedings of the ASME 2021 40th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2021), 21-30 June, Virtual, Online, OMAE2021-62241, 2021.
- ◆Yasuhiro Aida, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda: DEVELOPMENT OF A SIMULATION SYSTEM FOR ESTIMATING THE IMPACT FORCE OF TSUNAMI DRIFT USING THE EXPLICIT MPS METHOD, Proceedings of the ASME 2021 40th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2021) June 21-30, Virtual, Online, OMAE2021-62244, 2021.
- ◆Yasuhiro Aida, Tomotaka Takeo, Tomoki Ikoma, Koichi Masuda: A STUDY ON PERFORMANCE EVALUATION OF NON-REFLECTIVE BOUNDARY FOR PROGRESSIVE WAVES REPRODUCTION INTRODUCED IN NUMERICAL WAVE

TANK WITH MPS METHOD, Proceedings of the ASME 2021 40th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2021) June 21-30, Virtual, Online, OMAE2021-62364, 2021.

- ◆Tomoki Ikoma, Shota Hirai, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "Scale and Configuration Effects of an Airchamber on PTO of Oscillating Water Column Type Wave Energy Converters," Proceedings of the ASME 2021 40th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2021), doi: 10.1115/OMAE2021-62173, 2021.
- ◆Saika Iwamatsu, Yasunori Nihei, Kazuhiro Iijima, Tomoki Ikoma and Tomoki Komori, "Experimental Study on the Stability Performance and Turning Motion of Multi-Connection VAWT," Proceedings of the ASME 2021 40th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE2021), doi: 10.1115/OMAE2021-62662, 2021.
- ◆Masahiro Suzuki, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Chang-Kyu Rheem, "Experimental Study on the End Effect and the Effect Due to the Difference in End Shape of the Fluid Force Acting on a Rotating Cylinder in a Uniform Flow," Proceedings of the ASME 2021 40th International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE 2021), doi: 10.1115/OMAE2021-62589, 2021.
- ◆Tomoki Ikoma, Shoichiro Furuya, Yasuhiro Aida and Lei Tan, "Effects of Clearance Between Seabed and Bottom of a VLFS on Hydroelastic Responses", pp.331-346, Proceedings of the Second World Conference on Floating Solutions, Rotterdam (WCFS2020), Lecture Notes in Civil Engineering, Vol. 158, doi: 10.1007/978-981-16-2256-4, 2022

口頭発表・ポスター発表

- ◆古川景菜、居駒知樹、相田康洋、増田光一:PW-OWC型波力発電装置の共振特性、日本船舶海洋工学会講演会論文集、第32号、pp.547-549、2021
- ◆Lei Tan, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda, "Wave Drift Forces on a Barge-Type Floater with Moonpools," Conference proceedings, the Japan Society of Naval Architects and Ocean Engineers (32), 551-554, 2021. (written in English)
- ◆平井翔太、居駒知樹、相田康洋:振動水柱型波力発電装置の空気室の縮尺影響と非線形影響に関する基礎的研究、日本船舶海洋工学会講演会論文集、第32号、pp.555-558、2021.
- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌室:一樣流中で回転する円柱に働く流体力の振動成分と固有振動数の影響に関する実験的研究、日本船舶海洋工学会講演会論文集、第32号、pp.597-600、2021.

教員研究業績
研究室活動業績

- ◆守津颯哉、居駒知樹、相田康洋：垂直軸型風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン浮体における風車の回転影響に関する研究、日本船舶海洋工学学会講演会論文集、第32号、pp.611-615、2021.
- ◆古矢祥一郎、居駒知樹、相田康洋、増田光一：空気ダンパーを搭載する大型弾性浮体の波漂流力特性、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆塩島宇晶、恵藤浩朗、登川幸生、居駒知樹：GISを用いた災害時における主要病院の受入れ人数を考慮した医療支援浮体の適地選定、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆西河内亮、恵藤浩朗、居駒知樹：大型石炭貯蔵浮体の石炭積載状態に応じた変形と塑性ひずみに関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆鹿島暉、鈴木湧大、恵藤浩朗、居駒知樹：弾性係留システムの大型石炭貯蔵浮体への適用性に関する基礎的研究 その1 弾性係留索の性能評価と弾性係留システムの復元力特性、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆鈴木湧大、鹿島暉、恵藤浩朗、居駒知樹：弾性係留システムの大型石炭貯蔵浮体への適用性に関する基礎的研究 その2 弾性係留システムとカテナリー係留の運動応答特性の把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆相田康洋、居駒知樹、増田光一：道路情報に基づいた津波避難困難地域の特定のための効率的なルート探索方法に関する研究、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆茂筑雄大、居駒知樹：2浮体間のギャップが流体荷重に与える影響に関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆高野大輝、高嶋実和、恵藤浩朗、居駒知樹：深海を活用した水素生産・貯蔵システムの実現可能性に関する研究 その1 SLWRの構造特性把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆高嶋実和、高野大輝、恵藤浩朗、居駒知樹：深海を活用した水素生産・貯蔵システムの実現可能性に関する研究 その2 SLWRと係留索が接続する小型浮体の運動応答特性把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆増田光一、畔柳昭雄、居駒知樹、山口順子：災害時浮体式医療支援システムの計画概念、日本沿岸域学会研究討論会、2021.6
- ◆畔柳昭雄、相田康洋、増田光一：厳島神社の廻廊に関する考察 その1 厳島神社の海上への社殿建立に関する調査研究、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp. 21-22、2021.9
- ◆相田康洋、畔柳昭雄、増田光一：厳島神社の廻廊に関する考察 その2 簀子板に関する流体力学的観点からの研究、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp. 23-24、2021.9
- ◆野口隆幸、居駒知樹、相田康洋、増田光一：大型浮体に搭載された空気室が波漂流力特性に与える影響 その1 空気室を搭載した大型浮体の弾性運動応答、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp. 29-30、2021.9
- ◆居駒知樹、野口隆幸、相田康洋、増田光一：大型浮体に搭載された空気室が波漂流力特性に与える影響 その2 波漂流力特性の検証、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp. 31-32、2021.9
- ◆守津颯哉、居駒知樹、相田康洋：垂直軸型風車を搭載したムーンプールを有するポンツーン浮体の風・波共存場における風車のジャイロ効果が運動応答に与える影響に関する研究、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp. 33-34、2021.9
- ◆竹尾知岐、相田康洋、居駒知樹、増田光一：速度減少領域による無反射境界を導入したMPS法による二次元数値造波水槽の開発、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp. 35-36、2021.9
- ◆武川芽生、居駒知樹、相田康洋、増田光一：津波漂流物の衝突荷重に与える流体力及び喫水の影響に関する基礎的研究、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp. 39-40、2021.9
- ◆茂筑雄大、居駒知樹、相田康洋：2浮体間のギャップが波強制力に与える影響に関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp. 513-514、2021.12
- ◆野口隆幸、居駒知樹、相田康洋：大型浮体に搭載された空気室が波漂流力特性に与える影響に関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp. 515-516、2021.12
- ◆武川芽生、居駒知樹、相田康洋：津波漂流物の衝突荷重に与える流体力及び喫水の影響に関する基礎的研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp. 517-518、2021.12
- ◆竹尾知岐、相田康洋、居駒知樹：MPS法における不規則波浪場での波動吸収制御の有用性に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp. 519-520、2021.12

- ◆藤島健英（日大理工・院（前））・海建・居駒知樹・相田康洋：ムーンプールを有するポンツーン型浮体の動揺特性に与える排水量の影響に関する研究、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp. 521-522、2021.12
- ◆居駒知樹、相田康洋、恵藤浩朗、関谷直樹、高橋賢一、直井和久、Lei Tan：垂直軸型風車を搭載する浮体の風・波中動揺特性、第62回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会 pp. 581-582、2021.12
- ◆畔柳昭雄、増田光一、相田康洋、居駒知樹、江頭満正、戎崎俊一：突発性水害発生に対応したFLOATING CABINの研究開発、第29回海洋工学シンポジウム、2022.3
- ◆古川景菜、居駒知樹、相田康洋、増田光一：PW-OWC型波力発電装置の振動特性に関する研究、第29回海洋工学シンポジウム、2022.3
- ◆藤島健英、居駒知樹、相田康洋：ムーンプールを有するポンツーン型浮体に搭載された垂直軸型ツイーン風車の回転が浮体運動に与える影響について、第29回海洋工学シンポジウム、2022.3
- ◆村田一城、佐々真志、相田康洋、居駒知樹：海底地すべり流動が洋上風力基礎に及ぼす衝撃圧に関する基礎検討、第29回海洋工学シンポジウム、2022.3
- ◆竹尾知岐、居駒知樹、相田康洋：MPS法による無反射境界条件を用いた数値波動水槽の開発、第29回海洋工学シンポジウム、2022.3
- ◆鈴木雅洋、居駒知樹、相田康洋、林昌奎：回転円柱周りの流れ場に与える円柱表面相度の影響に関する実験的研究、第29回海洋工学シンポジウム、2022.3

—— 著書・執筆等 ——

- ◆居駒知樹：新型コロナとネット配信とイチヨウ並木、駿博会会報、No.92、駿博会、2021.12
- ◆居駒知樹：大型垂直軸風車を搭載した浮体式風力発電システムのタービン性能と耐波浪性能からみた実現可能性の研究、理工研 News No.73、2022.3
- ◆居駒知樹：「令和3年度理工学部の新型コロナウイルス感染症への取り組み事例」2）QRコードによる着席トレーサビリティ、桜工104号、理工学部校友会、2022.3
- ◆居駒知樹：海洋建築工学科がやってきたこと、桜工104号、理工学部校友会、2022.3

—— 所属学生の受賞等 ——

- ◆武川芽生：2021年度日本建築学会大会（東海）学術講演会 海洋建築部門 若手優秀発表賞、津波漂流物の衝突荷重に与える流体力及び喫水の影響に関する基礎的研究、建築学会海洋建築委員会、2022.12

—— 学外活動（講演・講義等） ——

- ◆相田康洋：津波避難準備時間に着目した沿岸域のリスク評価、国際津波防災学会津波防災対策検討分科会、第2回公開検討会基調講演、2021.7
- ◆居駒知樹：縦軸型風車の利点欠点とムーンプール付き浮体の応答特性、第147回海洋技術フォーラム、2021.8
- ◆相田康洋：巨大津波から10年一防潮堤とまちづくり、日本建築学会研究協議会、海洋建築部門、2021.9
- ◆強非線形流れ場における漂流物の構造物への衝突力に関して、海洋環境・海洋工学合同研究委員会、2021.12
- ◆居駒知樹：カーボンニュートラルな社会の構築と海洋再生可能エネルギー、第35回広島工業大学公開シンポジウム、「海のSDGs、ブルーエコノミー」2022.3

—— 学外活動（委員会活動等） ——

【居駒知樹】

- ◆東京大学生産技術研究所 リサーチフェロー
- ◆一般社団法人海洋エネルギー資源利用推進機構 理事（学術担当）
- ◆日本海洋工学学会 理事、運営委員（日本沿岸域学会担当）
- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会：海洋建築委員会 本委員会委員
- ◆日本建築学会：海洋建築委員会：海洋建築ローカルエリアネットワーク小委員会 主査
- ◆日本建築学会：海洋建築委員会：海洋建築エンジニアリング小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会：研究企画委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学学会：海洋工学・海洋環境研究企画部会 部会長
- ◆日本船舶海洋工学学会：海洋工学研究会 研究会長

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・S-24 海洋構造物のデジタルツイン技術に関するストラテジー委員会 主査
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋教育推進委員会 運営委員
- ◆日本沿岸域学会 理事、副会長
- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 委員長 (8月まで)
- ◆日本沿岸域学会・2021年アビール研究委員会委員長
- ◆テクノ・オーシャン・ネットワーク (TON) 理事
- ◆PACON International, Board member (理事)
- ◆OMAE 2021 & OMAE 2022 Symposium Organizer of Ocean Space Utilization
- ◆ASME, Extended Executive Committee Member of Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OOAE)
- ◆Techno-Ocean 2021 Technical Program Committee member
- ◆Techno-Ocean 2021 Panel Session 4 (洋上風力発電開発とビジネス)、コーディネーター
- ◆Renewable Energy 2021 分科会8 (海洋エネルギー) Co-Readers
- ◆IEC TC114 国内委員
- ◆IEC TC114 MT 62600-103 - Guidelines for WEC testing、国際委員
- ◆国土交通省・港湾局、海・船の視点から見た港湾強靱化検討委員会 委員

- ◆NEDO、特殊な設置形態の太陽光発電設備に関する安全性確保のためのガイドライン策定委員会 委員
- ◆土木学会 会員
- ◆ASME member
- ◆IEEE member
- ◆海洋技術フォーラム 幹事
- ◆海洋工学懇談会 幹事

【相田康洋】

- ◆船舶海洋工学会、海洋環境・海洋工学合同研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築津波等防災小委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・ローカルエリアネットワーク小委員会 委員
- ◆第29回海洋工学シンポジウム (日本建築学会) 実行委員
- ◆日本沿岸域学会 企画運営委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・津波避難シェルター小委員会 幹事

————— 研究助成・受託研究 —————

- ◆居駒知樹：戸田育英財団 令和3年度研究助成金、東京湾中央防波堤埋立地と周辺地域の今後の活用に関する研究
- ◆居駒知樹：受託研究、(一財) 港湾空港総合技術センター (SCOPE)、脱炭素社会への港湾分野の取り組みに関する基礎調査

惠藤研究室

————— 審査付論文 —————

- ◆惠藤浩朗、鹿島瞳、居駒知樹：弾性係留システムの係留条件の変化に伴う大型石炭貯蔵浮体の運動応答特性、土木学会論文集 B3 (海洋開発) 77(2) p.961-966、2021.06
- ◆Hiroaki Eto, Hitomi Kashima, Ryo Sekiguchi, Yudai Suzuki, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda : A parametric study on the motion response of large-scale floating structure moored by elastic mooring lines, Proceedings of ISOPE2021, TPC-0294, 2021.06
- ◆Hiroaki Eto, Miwa Takashima, Daiki Kono, Tomoki Ikoma, Yasuhiro Aida and Koichi Masuda : A Fundamental Study on Dynamic Behavior of Small Floating System with SLWR in Regular Waves, Proceedings of ISOPE2021, TPC-0413, 2021.06

————— 口頭発表・ポスター発表 —————

- ◆鹿島瞳、鈴木湧大、惠藤浩朗、居駒知樹：弾性係留システムの大型石炭貯蔵浮体への適用性に関する基礎的研究 ~その1. 弾性係留索の性能評価と弾性係留システムの復元力特性、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06
- ◆鈴木湧大、鹿島瞳、惠藤浩朗、居駒知樹：弾性係留システムの大型石炭貯蔵浮体への適用性に関する基礎的研究 ~その2. 弾性係留システムとカタナリー係留の運動応答特性の把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06
- ◆西河内亮、惠藤浩朗、居駒知樹：大型石炭貯蔵浮体の石炭積載状態に応じた変形と塑性ひずみに関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06
- ◆成松青空、小岩立汰、西河内亮、惠藤浩朗：ジャケット式海洋構造物の損傷に伴う振動特性の変化に関する研究 ~その1. 部材損傷による振動モード形への影響把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06
- ◆小岩立汰、成松青空、西河内亮、惠藤浩朗：ジャケット式海洋構造物の損傷に伴う振動特性の変化に関する研究 ~その2. 部材の剛性低下率と固有振動数の低下率の相関関係の把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06
- ◆高野大輝、高嶋実和、惠藤浩朗、居駒知樹：深海を活用した水素生産・貯蔵システムの実現可能性に関する研究 ~その1. SLWRの構造特性把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06

沿岸域学会研究討論会、2021.06

- ◆高嶋実和、高野大輝、惠藤浩朗、居駒知樹：深海を活用した水素生産・貯蔵システムの実現可能性に関する研究 ~その2. SLWRと係留索が接続する小型浮体の運動応答特性把握、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06
- ◆塩島宇晶、惠藤浩朗、登川幸生、居駒知樹：GISを用いた災害時における主要病院の受入れ人数を考慮した医療支援浮体の適地選定、日本沿岸域学会研究討論会、2021.06
- ◆菅原幹将、雄倉佐彩、野原さくら、鹿島瞳、鈴木湧大、惠藤浩朗：超大型浮体構造物に適用した弾性係留システムの復元力特性に関する基礎的研究、第65回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-3、2021.12
- ◆高野大輝、北島大誠、新家裕登、惠藤浩朗：SLWRが接続する小型浮体の復元力特性、第65回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-4、2021.12
- ◆関口峻介、土本和人、小岩立汰、西河内亮、惠藤浩朗：ジャケット構造物の損傷種類に伴う振動モード信頼性評価、第65回日本大学理工学部学術講演会 海洋建築部会、J-5、2021.12
- ◆惠藤浩朗、塩島宇晶、登川幸生、居駒知樹、増田光一：災害時医療支援浮体の基本計画と適地選定に関する研究、第29回海洋工学シンポジウム、OES29-A0035、2022.03

————— 学外活動 (講演・講義等) —————

- ◆惠藤浩朗：災害時医療支援浮体の適地選定および規模に関する研究、第53回海洋工学パネル、JAMSTEC 中西賞特別講演、2021.09

————— 学外活動 (委員会活動等) —————

- ◆東京大学生産技術研究所 研究員
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築エンジニアリング小委員会 幹事
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築企画小委員会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・海洋工学研究会・構造部会 委員
- ◆日本船舶海洋工学会・東部支部編集委員会 委員
- ◆日本沿岸域学会・論文編集委員会 委員

近藤研究室

————— 口頭発表・ポスター発表 —————

- ◆李濟援、近藤典夫：静水圧を受ける軸対称円筒シェルの静力学的性状に関する有限要素解析、日本建築学会大会 (東海) 学術講演会梗概集、2021.9
- ◆佐藤拓己、近藤典夫：高レイノルズ数域の2円柱の流力振動に関する数値解析、

日本建築学会大会 (東海) 学術講演会梗概集、2021.9

- ◆遠藤優太、近藤典夫：円筒形タンク内の非線形液面動揺に関する実験及び数値的研究、日本建築学会大会 (東海) 学術講演会梗概集、2021.9
- ◆山田涼介、近藤典夫：高レイノルズ数域での2次元円柱の渦励振に関する数

教員研究業績 研究室活動業績

値的研究、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集、2021.9

- ◆李濟援、近藤典夫：地震力が作用する軸対称円筒形タンク内の液面動揺に関する有限要素解析、令和3年度第65回日本大学理工学部学術講演会、2021.12
- ◆佐藤拓己、近藤典夫：高レイノルズ数域の2円柱の流体力学振動に関する数値解析、令和3年度第65回日本大学理工学部学術講演会、2021.12

—— 学外活動（委員会活動等） ——

- ◆日本建築学会・シェル・空間構造運営委員会 委員
- ◆日本建築学会・応用力学運営委員会 委員
- ◆日本建築学会・連続体力学の連成問題小委員会 委員
- ◆日本計算工学会・代議員

北嶋研究室

—— 審査付論文 ——

- ◆難波隆行、北嶋圭二、中西三和：超高強度正方形CFT短柱の一軸圧縮下における挙動に関する研究、日本建築学会技術報告集（AIJ Journal of Technology and Design）、Vol.27、No.67、pp.1285-1290、2021.10
- ◆M. Hada, K. Takeuchi and K. Kitajima：Development and Application of "Super-Elastic Brace" for Steel Buildings. 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2c-0032, Sendai, Japan, 2021.9-10
- ◆T. Tsuchida, M. Hada, Y. Yanagita, K. Takeuchi and K. Kitajima：Development of Sliding Foundation Structure using Graphite Friction Material. 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2g-0187, Sendai, Japan, 2021.9-10
- ◆Y. Yamasaki, M. Hada, Y. Ishiwata, S. Kawase, N. Yamazaki and K. Kitajima：Development of Lens Shear Panel Damper and Structural Test for Application to Building. 17th World Conference on Earthquake Engineering, 2g-0071, Sendai, Japan, 2021.9-10

—— 口頭発表・ポスター発表 ——

《日本建築学会大会》

- ◆村上航太、加藤百華、巨健太郎、北嶋圭二、中西三和、安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その7 縮約1自由度系と多自由度系の整合性に関する検討）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.479-480、2021.9
- ◆加藤百華、村上航太、巨健太郎、北嶋圭二、中西三和、安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その8 10階建て既存RC造系建物の制震構造設計スタディー）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.481-482、2021.9
- ◆巨健太郎、加藤百華、村上航太、北嶋圭二、中西三和、安達洋：等価線形化法による制震補強設計法に関する研究（その9 制震補強建物と縮約1自由度系の構造性能の確認）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.483-484、2021.9
- ◆波田雅也、北澤龍太郎、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しブレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その3 H形鋼芯材の疲労特性と円形鋼管芯材の実験概要）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.993-994、2021.9
- ◆北澤龍太郎、波田雅也、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しブレースの芯材の局部座屈挙動に関する実験的研究（その4 円形鋼管芯材の局部座屈挙動と疲労特性）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.995-996、2021.9
- ◆黒沼亜美、國府田有加、天谷光、北嶋圭二、中西三和、安達洋：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その1 試験体および実験概要）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.481-482、2021.9
- ◆天谷光、國府田有加、黒沼亜美、北嶋圭二、中西三和、安達洋：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その2 実験結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.483-484、2021.9
- ◆國府田有加、天谷光、黒沼亜美、北嶋圭二、中西三和、安達洋：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その3 2方向振動台実験と解析結果の比較）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.485-486、2021.9
- ◆松浦昂汰、森川葵、北嶋圭二、中西三和、安達洋：最上階に設置した加速度計の観測記録を用いた損傷評価方法（その1 評価方法および検討対象建物の概要）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.71-72、2021.9
- ◆森川葵、松浦昂汰、北嶋圭二、中西三和、安達洋：最上階に設置した加速度計の観測記録を用いた損傷評価方法（その2 検討対象建物の解析結果および損傷評価結果）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.73-74、2021.9

- ◆矢部春恵、土屋敬宜、神田亮、北嶋圭二、中西三和、安達洋：P- Δ 効果の影響を考慮した天然ゴム系積層ゴム支承の力学的挙動に関する研究、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.245-246、2021.9
- ◆林晴桂、土田亮章、森清隆、伊藤仁、飯塚信一、扇谷匠、増永翔太、北嶋圭二：円環断面に支持されたコンクリートの圧縮耐力、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.523-524、2021.9
- ◆土田亮章、林晴桂、森清隆、村田鉄雄、山崎康雄、太田雄介、松田竜、北嶋圭二：既製杭を対象とした杭頭免震構造の杭頭接合部性能確認実験（その1 実験概要）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.517-518、2021.9
- ◆扇谷匠、竹内健一、土田亮章、森清隆、村田鉄雄、山崎康雄、松田竜、北嶋圭二：既製杭を対象とした杭頭免震構造の杭頭接合部性能確認実験（その2 免震部材を介した加力実験）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.519-520、2021.9
- ◆増永翔太、土田亮章、林晴桂、森清隆、村田鉄雄、飯塚信一、清水淳、北嶋圭二：既製杭を対象とした杭頭免震構造の杭頭接合部性能確認実験（その3 杭頭接合部の終局耐力の確認）、日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）、pp.521-522、2021.9

《理工学部学術講演会》

- ◆村上航太、北嶋圭二、中西三和、安達洋：制震建物に作用する外力分布に関する検討、令和3年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-48、pp.109-110、2021.12
- ◆國府田有加、北嶋圭二、中西三和、安達洋：2方向地震動を受ける4階建て滑り基礎構造建物の地震応答性に関する研究、令和3年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-46、pp.105-106、2021.12
- ◆黒沼亜美、國府田有加、北嶋圭二、中西三和、安達洋：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験 一定常波入力時の実験結果一、令和3年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-50、pp.113-114、2021.12
- ◆北澤龍太郎、波田雅也、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しブレースの円形鋼管芯材の限界性能に関する研究、令和3年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-49、pp.111-112、2021.12
- ◆森川葵、北嶋圭二、中西三和、安達洋：最上階に設置した加速度計の観測記録を用いた損傷評価方法、令和3年度日本大学理工学部学術講演会、構造・強度部会、B-47、pp.107-108、2021.12

—— 著書・執筆等 ——

- ◆北嶋圭二：MENSIN 巻頭言「制震構造建物の発展と普及」、日本免震構造協会、MENSIN、No.112、p.1、2021.4
- ◆北嶋圭二：建築技術 免震・制振技術変遷と新たな進展「耐震診断の技術変遷」、建築技術、No.865、pp.124-125、2022.2
- ◆北嶋圭二、高橋孝二：建築技術 免震・制振技術変遷と新たな進展「耐震改修の技術変遷」、建築技術、No.865、pp.126-129、2022.2
- ◆久保田雅春、北嶋圭二：建築技術 免震・制振技術変遷と新たな進展「耐震補強と既存建物の在り方」、建築技術、No.865、pp.130-123、2022.2

—— 所属学生の受賞等 ——

- ◆波田雅也：Early Career and Student Award、17th WORLD CONFERENCE ON EARTHQUAKE ENGINEERING、2021.10（2019年度修士の受賞）
- ◆國府田有加：滑り基礎構造建物の2方向振動台実験（その3 2方向振動台実験と解析結果の比較）、2021年度日本建築学会大会（東海）若手優秀発表賞（構造部門（振動分野））、2021.10
- ◆國府田有加：2方向地震動を受ける4階建て滑り基礎構造建物の地震応答性に関する研究、令和3年度日本大学理工学部学術講演会 優秀発表賞（構造・強度部門）、2022.1

教員研究業績 研究室活動業績

学外活動（講演・講義等）

- ◆北嶋圭二：NHK BS プレミアム「驚き！ニッポンの底力 建築王国物語」、NHK BS プレミアム、2021.7.24（出演）
- ◆北嶋圭二：日本免震構造協会講習会「中高層建物の制振設計に関する講習会—各種ダンパーを用いた実建物の設計事例紹介—」、2021.9.24（講師）
- ◆北嶋圭二：日本建築学会関東支部講習会「免震・制振構造の設計—学びやすい構造設計—」、2021.11.9（講師）

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会・鉄筋コンクリート構造運営委員会（委員）
- ◆日本建築学会・既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会（幹事）
- ◆日本建築学会・既存中層RC建物の耐震性能評価指針作成小委員会・評価例作成WG（主査）
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・免震制振構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会・耐震構造の設計改訂WG（委員）
- ◆日本免震構造協会・審議員
- ◆日本免震構造協会・技術委員会（委員）

- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会（委員）
- ◆日本免震構造協会・修士論文審査委員会（委員長）
- ◆日本沿岸域学会 理事
- ◆日本沿岸域学会 論文集編集委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査・高層評定委員会（委員）
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・高層評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・耐震評定委員会（委員）
- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会（委員）
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定委員会（委員）

研究助成・委託研究

- ◆委託研究：青木あすなろ建設株式会社、合理的な耐震構造システムに関する研究開発
- ◆委託研究：株式会社ダット、鋼材ダンパーの性能評価に関する技術指導及び研究（令和3年度）
- ◆委託研究：西松建設株式会社、強震観測に基づく建物の振動特性評価と健全性判定支援システムに関する研究（令和3年度）
- ◆委託研究：日鉄建材株式会社、プレミアムウェブシートシェルターの構造実験
- ◆研究奨励寄付金：株式会社共和電業、計測器の高精度化に関する研究
- ◆研究奨励寄付金：株式会社名構設計、鋼板折返し機構を有する座屈拘束ブレース

福井研究室

審査付論文

- ◆浜原正行、小池正大、福井剛：アンボンドプレキャストプレストレストコンクリート部材の耐力 日本建築学会構造系論文集、第789号 pp.1549-1557、2021.11

口頭発表・ポスター発表

- ◆奥祐太郎、小川智輝、宮原椋一、福井剛、小池正大、浜原正行：PCaPC 圧着梁のせん断抵抗機構に関する実験的研究 その1 実験概要、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.689-690、2021.9
- ◆小川智輝、奥祐太郎、宮原椋一、福井剛、小池正大、浜原正行：PCaPC 圧着梁のせん断抵抗機構に関する実験的研究 その2 実験結果、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.691-692、2021.9
- ◆宮原椋一、小川智輝、奥祐太郎、福井剛、小池正大、浜原正行：PCaPC 圧着梁のせん断抵抗機構に関する実験的研究 その3 実験結果との比較、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.693-694、2021.9
- ◆姜建毅、浜原正行、小池正大、福井剛：トラス機構耐力の残余分に曲げ耐力を用いたPC有孔梁の耐力伝達と母材耐力式、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.699-700、2021.9
- ◆増田雄太、浜原正行、小池正大、福井剛：トラス機構耐力の残余分に曲げ耐力式を用いたPC有孔梁の耐力 その2 開口部弦材の耐力算定式の誘導と計算精度、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.701-702、2021.9
- ◆小池正大、浜原正行、増田雄太、福井剛：アンボンドPCaPC部材の曲げ耐力 その1 終局モーメントと破壊モードに対する検討、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.723-724、2021.9
- ◆浜原正行、小川智輝、小池正大、福井剛：アンボンドPCaPC部材の曲げ耐力 その2 曲げ耐力式の提案、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.725-726、2021.9
- ◆立花弘、金庭史弥、奥祐太郎、宮原椋一、福井剛：梁・接合部一体型工法による柱曲げ降伏型PCaPC架構の耐震性能に関する実験的研究 その1 実験概要、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.735-736、2021.9
- ◆金庭史弥、立花弘、奥祐太郎、宮原椋一、福井剛：梁・接合部一体型工法による柱曲げ降伏型PCaPC架構の耐震性能に関する実験的研究 その2 実験結果、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.737-738、2021.9
- ◆大塚夕、深谷勇介、姜建毅、福井剛、浜原正行：長期荷重を受けるPCaPC骨組の地震後の継続使用性に関する解析的研究 その1 解析概要及び解析結果、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.739-740、2021.9
- ◆深谷勇介、大塚夕、姜建毅、福井剛、浜原正行：長期荷重を受けるPCaPC骨組の地震後の継続使用性に関する解析的研究 その2 残留変形時の曲げ

モーメントとたわみ、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.741-742、2021.9

- ◆奥祐太郎、高木翔、宮原椋一、浜原正行、福井剛：PC 鋼材の付着が PCaPC 圧着部材のせん断耐力に及ぼす影響に関する実験的研究—その1 実験概要—、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.15-16、2021.9
- ◆奥祐太郎、高木翔、宮原椋一、浜原正行、福井剛：PC 鋼材の付着が PCaPC 圧着部材のせん断耐力に及ぼす影響に関する実験的研究—その2 実験結果—、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.17-18、2021.9
- ◆宮原椋一、高木翔、奥祐太郎、浜原正行、福井剛：PC 鋼材の付着が PCaPC 圧着部材のせん断耐力に及ぼす影響に関する実験的研究—その3 耐力評価式の提案—、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.19-20、2021.9
- ◆小池正大、浜原正行、福井剛：アンボンドPCaPC部材の最大荷重時における等価ストレスブロック、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.21-22、2021.9
- ◆柄澤大樹、深谷勇介、福井剛、浜原正行：長期荷重を受けるPCaPC骨組の地震後の力学的挙動に関する解析的研究—その1 解析概要及び解析結果—、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.23-24、2021.9
- ◆深谷勇介、柄澤大樹、福井剛、浜原正行：長期荷重を受けるPCaPC骨組の地震後の力学的挙動に関する解析的研究—その2 残留変形時の曲げモーメントとたわみ—、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.25-26、2021.9
- ◆小川智輝、増田雄太、小池正大、福井剛：トラス機構耐力の残余分に曲げ耐力式を用いたPC有孔梁の耐力—その1 有孔梁の応力伝達と母材耐力式—、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.27-28、2021.9
- ◆増田雄太、小川智輝、小池正大、福井剛：トラス機構耐力の残余分に曲げ耐力式を用いたPC有孔梁の耐力—その2 開口部弦材の耐力算定式と計算精度—、第65回日本大学理工学部学術講演会 構造・強度部会 pp.29-30、2021.9

著書・執筆等

- ◆福井剛ほか：プレストレストコンクリート設計施工規程2022、日本建築学会、2020.3

学外活動（講演・講義等）

- ◆福井剛、加藤博人、川本浩一、西山峰広、河野進、深井悟：日本建築学会 構造委員会 プレストレストコンクリート構造運営委員会「プレストレストコンクリート設計施工規程」改定講習会、2022.3

教員研究業績 研究室活動業績

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 代議員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会 幹事
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規程指針小委員会 委員
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会 主査
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工 WG 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 プレストレストコンクリート建築専門研究委員会 委員
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト作成委員会 幹事
- ◆日本建築学会・関東支部 講習会用構造テキスト委員会 PC 構造の設計改定 WG 主査
- ◆プレストレストコンクリート工学会 浜松町駅旅客ホーム上家調査委員会 委員長

- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士試験問題小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・コンクリート構造診断士技術講習会小委員会 委員
- ◆プレストレストコンクリート工学会・会誌編集委員会 論文審査小委員会 委員
- ◆日本 ERI・建築基準法に基づく構造性能評価委員会 委員

研究助成・受託研究

- ◆福井剛：研究奨励寄付金、オリエンタル白石、PC 骨組の地震後における長期荷重に対する性能評価
- ◆福井剛：受託研究、藤寿産業、CLT 壁の面内せん断試験

高橋研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆山崎康雄、竹内章博、金川基、高橋孝二：木造建築物の 2016 年熊本地震に対する挙動 振動台実験 ～その 1 実験概要と実験結果、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.287-288、2021.9
- ◆竹内章博、山崎康雄、金川基、高橋孝二：木造建築物の 2016 年熊本地震に対する挙動 振動台実験 ～その 2 解析による振動台実験結果の検討、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.289-290、2021.9
- ◆高橋孝二、山崎康雄、竹内章博、金川基：木造建築物の 2016 年熊本地震に対する挙動 振動台実験 ～その 3 制振ダンパーの効果、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.291-292、2021.9
- ◆金川基、赤井冬来、小寺直幸、飯塚信一、高橋孝二、安田稜太、丸田誠、田村彰教：梁端部に開口を有するヒンジリロケーション接合部に関する研究 ～その 1 片持ち梁型曲げ実験の概要、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.279-280、2021.9
- ◆安田稜太、金川基、赤井冬来、小寺直幸、飯塚信一、高橋孝二、丸田誠、田村

- 彰教：梁端部に開口を有するヒンジリロケーション接合部に関する研究 ～その 2 片持ち梁型曲げ実験の結果、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.281-282、2021.9
- ◆赤井冬来、小寺直幸、金川基、飯塚信一、高橋孝二、安田稜太、丸田誠、田村彰教：梁端部に開口を有するヒンジリロケーション接合部に関する研究 ～その 3 片持ち梁型曲げ実験の考察、日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集 pp.283-284、2021.9

著書・執筆等

- ◆北嶋圭二、高橋孝二：建築技術 免震・制振技術変遷と新たな進展「耐震改修の技術変遷」、建築技術、No.865、pp.126-129、2022.2

研究助成・受託研究

- ◆高橋孝二：共同研究、西松建設(株)、水平スリットのみを配置する鉄筋コンクリート造袖壁付き柱構造の性状把握に関する共同研究

星上研究室

審査付論文

- ◆宇多高明、星上幸良、長谷川孝幸、薩川裕貴、五十嵐竜行、金澤拓磨：セットバック式に改良された沼川第二放水路 1 号水路での放水実験、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、I_307-I_312、2021.7
- ◆横田拓也、小林昭男、宇多高明、星上幸良、野志保仁：稲毛海岸における養浜後の地形変化観測と再現計算、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、I_325-I_330、2021.7
- ◆宇多高明、星上幸良、野志保仁、五十嵐竜行：セットバック型に改良された沼川第二放水路の現地放水実験、土木学会論文集 B2（海岸工学）、土木学会論文集 B2（海岸工学）、Vol.77、No.2、487-492、2021.11

口頭発表・ポスター発表

- ◆星上幸良、宇多高明、三波敏郎、金澤琢磨：鎌倉市稲村ヶ崎周辺における海食崖と海食洞の発達、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 10-3、2021.6
- ◆星上幸良、宇多高明、横田拓也、押見青幹：UAV による由比ヶ浜および材木座海岸の 3 次元海浜形状の観測、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 3-1、2021.6
- ◆宇多高明、星上幸良、大谷靖郎、押見青幹、横田拓也、高橋紘一郎：UAV による秋谷海岸での養浜後の 3 次元海浜形状の測定、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 3-2、2021.6
- ◆高須健巨、星上幸良、鶴岡正照、服部風零彦：津波自主避難計画の手引きに関する基礎的研究、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 7-4、2021.6
- ◆齋藤修、小山田拓郎、川口祐希、田中仁、小笠原敏記、松政正俊、小澤宏樹、加藤英紀、大塚哲哉、星上幸良：根浜海岸砂浜再生事業における養浜工効果影響解析、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 2-5、2021.6

- ◆星上幸良・高須健巨：海浜利用者の津波避難時間に関する基礎的研究、2021 年度日本建築学会大会（東海）学術講演会梗概集、2021.9
- ◆星上幸良：居住地「みなとまち」の現状と課題、2021 年度日本建築学会 [東海] 海洋建築部門 - 研究協議会、「巨大津波から 10 年 - 防潮堤とまちづくり」

著書・執筆等

- ◆星上幸良：居住地「みなとまち」の現状と課題、2021 年度日本建築学会 [東海] 海洋建築部門 - 研究協議会、「巨大津波から 10 年 - 防潮堤とまちづくり」

所属学生の受賞等

- ◆押見青幹（共著）：「研究討論会 2021」優秀講演表彰、UAV による秋谷海岸での養浜後の 3 次元海浜形状の測定、日本沿岸域学会、2021.6

学外活動（講演・講義等）

- ◆星上幸良：津波浸水予測手法～設定条件の基礎知識～、国際津波防災学会、第 3 回津波防災対策公開検討会、2022.2

学外活動（委員会活動等）

- ◆日本建築学会 津波 WG 委員
- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会 委員
- ◆日本建築学会 災害委員会 委員
- ◆日本建築学会 SDGs 対応推進特別委員会 委員
- ◆土木学会 土木技術者資格委員会 審査委員

研究助成・受託研究

- ◆星上幸良：研究奨励寄付金、一般財団土木研究センター、UAV 測量による清水海岸新型突堤周辺の地形変化に関する研究

沿岸域工学研究室（野志・小林）

審査付論文

- ◆宇多高明、伊達文美、大木康弘、関根雅人、野志保仁：波向の季節変動に起因する沖繩知念沖のコマカ島の砂州変形、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、pp.L319-L324、2021
- ◆横田拓也、小林昭男、宇多高明、星上幸良、野志保仁：稲毛海岸における養浜後の地形変化観測と再現計算、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、pp.L325-L330、2021
- ◆関根雅人、小林昭男、宇多高明、野志保仁、芹沢真澄：全方位から波の作用を受ける砂でできた円形島の変形予測、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、pp.L337-L342、2021
- ◆高橋紘一郎、小林昭男、宇多高明、野志保仁：作用波高の大小に起因する海浜植生帯の分布域の変化、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、pp.L547-L552、2021
- ◆石川仁憲、宇多高明、田村貴久、小金宏秋、横田拓也、大谷靖郎：広域土砂管理としての海浜背後に堆積した飛砂の有効利用の検討、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、pp.L841-L846、2021
- ◆宇多高明、横田拓也、高橋紘一郎、伊達文美：霞ヶ浦天ヶ崎に創生された湖浜の安定性の確認、土木学会論文集 B3（海洋開発）、Vol.77、No.2、pp.L853-L858、2021
- ◆宇多高明、田村貴久、小金宏秋、横田拓也、芹沢真澄、大谷靖郎：飛砂を考慮した BG モデルによる片瀬西浜の侵食機構の解明と対策検討、土木学会論文集 B2（海岸工学）、77 巻 2 号 p.L427-L432、2021.11
- ◆横田拓也、小林昭男、宇多高明、野志保仁、芹沢真澄：波による漂砂と飛砂を同時に考慮した混合粒径海浜の変化予測モデル、土木学会論文集 B2（海岸工学）、77 巻 2 号、p.L433-L438、2021.11
- ◆宇多高明、星上幸良、五十嵐竜行、野志保仁：セットバック型に改良された沼川第二放水路の現地放水実験、土木学会論文集 B2（海岸工学）、77 巻 2 号、p.L487-L492、2021.11
- ◆Uda, T. and Noshi, Y.: Recent shoreline changes due to high-angle wave instability along the east coast of Lingayen Gulf in the Philippines, Geosciences 2021, p144, 2021.11

口頭発表・ポスター発表

- ◆星上幸良、宇多高明、横田拓也、押見青幹：UAV による由比ヶ浜および材木座海岸の 3 次元海浜形状の観測、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 3-1、2021
- ◆宇多高明、星上幸良、大谷靖郎、押見青幹、横田拓也、高橋紘一郎：UAV に

よる秋谷海岸での養浜後の 3 次元海浜形状の測定、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 3-2、2021

- ◆小関りな、竹内麻莉愛、小林昭男、宇多高明、野志保仁：海岸での海水浴利用客分布の測定法、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 7-2、2021
- ◆加藤颯、渡辺 聡、小林昭男、宇多高明、横田拓也、野志保仁：犬吠崎に隣接する君ヶ浜海岸の変遷、日本沿岸域学会研究討論会 2021 講演概要集、No.33（PDF）、セッション 10-5、2021

学外活動（講演・講義等）

- ◆出張講義「SDGs と海洋建築工学科の取り組みについて」、野志保仁・CST サイエンスアカデミー-SDGs をテーマに、2021

学外活動（委員会活動等）

- ◆野志保仁：土木学会海洋開発委員会（幹事兼委員）
- ◆野志保仁：洋上風力技術研究会（専門家・環境アセスメント）
- ◆小林昭男：日本海洋工学会（副会長・理事・運営委員会委員）
- ◆小林昭男：日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆小林昭男：神奈川県港湾審議会（委員）
- ◆小林昭男：市原市建築審査会（委員）

研究助成・受託研究

- ◆野志保仁：受託研究、日本工営株式会社、海岸保全対策に関するオンライン利用を目的とした教材開発
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、アジア航測株式会社、海浜変形予測における ALB の活用方法に関する研究
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、海岸研究室有限公司、七里御浜の海浜地形に関する研究
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、株式会社オリエンタルコンサルタンツ、神奈川県湯河原の海浜地形に関する研究
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、サンコーコンサルタンツ株式会社、茨城県酒沼の海浜地形に関する研究
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、一般財団法人土木研究センター、逗子海岸の海浜地形と底質粒径組成に関する調査
- ◆野志保仁：研究奨励寄付金、株式会社ダイコウ測量設計、海浜地形と底質粒径組成に関する研究

最新情報を SNS でチェック!!



令和
3
年度

卒業生の就職状況および就職活動に向けて

1. 就職状況の全体像

昨年度（2022年2月末時点）の進学・就職状況を（表1）に示します。就職希望者の就職内定率は、学部・大学院ともにほぼ100%となりました。令和3年度の就職活動は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受け、オンライン上でのインターンシップや企業説明会および採用面接が主であり、従来の形式とは大きく異なるものとなりました。しかし、建設業界の人手不足は未だ顕著であり、人材確保に積極的な企業が多いことから、ここ数年の就職状況は大変、堅調な状態であると言えます。

2. 業種別就職内定先

本学科の2022年3月卒業生学生の主要内定企業一覧を（表2）に示します。就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く、令和3年度は65名で

表1 就職・進学状況（学部・大学院）

	学部			大学院			学部・院	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計	合計	R2年度	R1年度
学生数（人）	102	38	140	21	7	28	168	169	178
就職希望者（人）	68	31	99	21	7	28	127	125	140
内定	67	30	97	21	7	28	125	124	140
未定	1	1	2	0	0	0	2	1	0
内定率（%）	99	97	98	100	100	100	98	99	100
大学院進学（人）	31	5	36	0	0	0	36	39	29
本学	31	5	36	0	0	0	36	38	26
他大学	0	0	0	0	0	0	0	1	3
その他（人）	3	2	5	0	0	0	5	5	9
研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	1
留学（希望者含む）	0	0	0	0	0	0	0	0	2
他大学・専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0
次年度公務員志望	0	0	0	0	0	0	0	1	0
就職の意思のない者	3	2	5	0	0	0	5	4	6

表2 主要就職先企業一覧

業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院	業種	会社名	学部	大学院
建設業	清水建設	2		建設業	松井建設	1		海洋コンサルタント	日本港湾コンサルタント		1
	大成建設	5	2		五栄土木*	1			サンユウシビルエンジニアリング		1
	大林組	1			あおみ建設*	1			長大		1
	鹿島建設		1		みらい建設工業*	1			中央コンサルタンツ		1
	竹中工務店	2			五洋建設*	5			サンコーコンサルタント		1
	戸田建設	1	1		東亜建設工業*	1	1		日本工営	1	
	フジタ	1	2		東洋建設*	1			日本エンジニアリング	3	
	前田建設工業	1			りんかい日産建設*	1			三洋テクノマリン	1	
	銭高組	1			若築建設*	1			海岸研究室		1
	青木あすなろ建設	1			不動テトラ*	1			八千代エンジニアリング		1
	熊谷組	1			日建設計		1		日立造船		2
	ピーエス三菱		1		梓設計	1			パシフィックコンサルタンツ		1
	三井住友建設	1			J-POWER 設計 コンサルタント	1			千葉県	1	
	高松建設	7		ゆう建築設計		1	京都市役所		1		
	長谷工コーポレーション	2		ワークビジュンズ		1	千葉市役所	1			
	鉄建建設	2		アルモ設計		1	柏市役所	1			
	佐藤工業	1		エスバス建築事務所	1		館山市	1			
	大木建設	1		大和ハウス工業	1	2	東京電力 HD	1			
	東急建設	1		ボラス	1		東芝プラントシステム	2			
	新日本建設	1		日本住宅	1		石油天然ガス・ 金属鉱物資源機構		1		
	東鉄工業	1		長谷工コミュニティ	1		中井エンジニアリング	1			
	JFE シビル	1		大東建託	1		山九	1	1		
	株木建設	1		日本総合住生活	1		独法 環境再生保全機構	1			

*マリコン

あり全体の61%を占めています。また、設計事務所は9名(6%)、住宅・不動産は8名(8%)、であり、これらで全体の75%を占めています。また、比較的土木寄りの業種である海洋系・建設コンサルタントへの就職が18名(17%)いることや建設業の中でもマリコンが多いことが本学科の特徴です。内定先企業名をみると、いずれも業界屈指の大手企業に一定数が就職していることが分かります。この状況は理工学部建築学科と比較しても全く遜色ありません。自信をもって就職活動に挑んでください。

3. 本年度の就職活動に向けて

就職活動に際しては、学科が積極的なサポートを行っています。就職活動スケジュールを(表3)に示す。学科では、新3年生、新修士1年生を対象に年数回の就職ガイダンスの開催を予定しています。ガイダンスでは、最新の企業動向や就職活動スケジュール、学内ルール等の重要な情報を伝えます。学科主催のガイダンスは、これまでの就職指導の経験を通して、海洋建築工学科の学生の適性や嗜好を踏まえた内容としているため他にはないものになっています。是非、有効活用してください。

海洋建築工学科OBOGによる会社説明会である「カイケンJOBスクール」(表3)では、令和2年度から完全オンライン開催とし、海洋建築の学生を熱望する企業が40社以上参加します。本来、これらの企業をすべて訪問するには、おそらく半年以上かかるでしょう。「カイケンJOBスクール」は毎週(前年度は毎週月曜日16:00~17:45)に2社~4社程度で開催しているため、建築、土木、海洋、エンジニアリング、建設コンサルタントなど、様々な企業の情報を頻繁に収集することができます。毎週参加し、視野を大きく広げる機会としてください。また、建築学科との共催による「OBOGと学生との懇談会」(表3)は、建築関連企業に特化した就職イベントです。こちらも令和2年度からオンライン上での開催となりました。大手ゼネコンを含む約80社が参加し、企業側の説明者は両学科の

OBOGです。建設業に進む学生の8割は、これらのイベントの参加企業に就職しています。各種イベントを最大限に有効活用し、日本大学の強みであるOBOGネットワークを駆使して、希望する企業への就職内定を勝ち取りましょう。

令和4年度の学科の就職指導担当は高橋、菅原、寺口、学科教室事務の担当者がフォローします。学科教室事務室は13号館3階1321室です。対応時間は平日10~17時です。また、moodleの「2024卒就職関連情報」ページには、学科の就職イベントや企業のインターンシップおよび会社説明会、求人情報などを随時掲載しています。こまめに定期的に確認するように心掛けてください。さらに、13号館1階の「キャリア支援センター」では、企業情報やOBOGの活動履歴の閲覧に加え、履歴書の作成指導や模擬面接を受けることができます。是非一度足を運んでみてください。

4. 本年度の就職活動に向けて

企業の採用活動の時期は、年々早期化する傾向が見られます。3月：会社説明会開始、6月：企業内選考開始を表向きは原則とする企業が多い中、実態としては早期選考(表3)を行う企業もあります。大手ゼネコンや大手設計事務所は、かなり早期に採用活動を開始しています。有利に就職活動を進めるためには、夏期インターンシップ(8~9月頃)に参加するなど、情報収集を行うとともに計画性をもって活動していく必要があります。また、早期に採用活動を実施する企業は、冬期インターンシップ(1月頃)や現場見学会において、リクルーターによる面談が行われ学生の選抜が進められます。これは実質的な面接です。3月を待たずして内々定を出す企業もあります。それ以外の多くの企業は、採用時期は若干遅くなりますが、各種インターンシップは開催します。そのため、冬期インターンシップに参加するためには、12月中には就職の方向性(業種・職種・企業規模等)を決めておく必要があります。各企業の開催日程が重複するため、それほど多くのインターンシップには参加出来ないためです。インターンシップ

表3 就職スケジュール

	3年生 / 修士1年生						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
学科支援イベント	▼ガイダンス(年間スケジュール、就職活動の注意事項等)						
	▼ガイダンス(リクナビ:昨年度の就職活動の動向、SPI・WEBテストの概要)						
	▼ガイダンス(マイナビ:昨年度の就職活動の動向、SPI・WEBテストの概要)						
	▼ガイダンス(リクナビ:インターンシップ参加の位置付け)						
	▼ガイダンス(内定者体験座談会:スーゼネ5社内定者)						
	▼ガイダンス(リクナビ SPI受検会①)						
早期選考企業	▼ガイダンス(夏休みの過ごし方、企業研究、オンライン面談の注意事項)						
	▼ガイダンス(右①~③ イベントの説明会)						
	▲夏季インターンシップエントリー						
	▶夏季インターンシップ						

への参加は就職活動の必須条件ではありませんが、学生は企業と仕事内容を知り、企業は学生と巡り会う機会として、双方のメリットがあるため、この数年で開催頻度が急速に増えてきており、その重要度も増す傾向にあります。特に、夏季インターンシップには、興味のある業種の企業に最低1つは参加しましょう。就職活動に対する意識・考え方も変わるはずで、3年生の夏休みの過ごし方は重要であり、SPI試験対策や専門試験対策、企業研究、履歴書の試作等、やるべきことが盛りだくさんです。企業は人材確保に積極的ですが、能力の高い学生だけを求める傾向が強まっています。

5. オンラインでの就職活動における留意点

オンライン上での採用活動が一般化した昨年は、より早期採用の傾向が強まっています。建設業界特有の動向を注視する必要があります。特に、オンラインを中心とした就職活動では、大学や企業からの様々な情報を見逃さないように注意しましょう。企業の動きや同級生の活動状況が分からず、自分自身の就職活動の状態に不安を感じることもあると思います。就職指導担当の教員や所属する研究室の指導教員に相談したり、研究室の先輩の体験談を聞いたりすると方向性が見いだせるはずで、自ら積極的に情報収集を行うようにしましょう。

6. 大学院進学のお勧め

海洋建築工学科では、毎年数多くの学部生が大学院へ進学しています。(表1)に示すように毎年3割程度は進学していて、理工学部内でも常にトップクラスです。大学院で更にレベルの高い学問を修得することにより、専門性を高めた仕事に就くことができます。是非、進学も視野に入れた進路を考えてみてください。

大学院の入試は、4年生の年の7月、9月、3月の3期に渡り実施されます。試験は筆記と面接になりますが、3年生までの成績による学内推薦もあるので、しっかり学修することを心がけましょう。



カイクン JOB スクール開催風景



OBOG と学生との懇談会開催風景

3年生 / 修士1年生

10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 ▶ OBOG と学生の懇談会					
2 ▶ カイクン JOB スクール					
3 ▶ キャリア教育プログラム (大学院生のみ)					
▼ ガイダンス (マイナビ: WEB 模擬テスト)					
▶ 求人票、学科推薦リスト公開					
▼ ガイダンス (リクナビ SPI 受検会②)					
▲ リクレーター面談・ES 合否判断			▶ 冬季インターンシップ 1月		
▲ SPI 受検			▲ 企業面接		● 内々定

海と建築

vol.
25

コ ロナ以後、三密を避けられるオープンエアの場所が人気である。屋外で開催される朝市は、初期投資も少なく、誰でも開業でき、マチの活性化にも貢献している。

全 国には、港付近で開催されている朝市が約 50 か所、確認されているが、その中でも「日本三大朝市」と呼ばれる石川県の輪島朝市、千葉県の勝浦朝市、佐賀県の呼子朝市が歴史も古く有名である。しかし、この三大朝市を超えるビッグな朝市が青森県八戸市に出現した。2010年

に朝市組合が設立されてからわずか 10 年程度なのに、出店数は最大 360 店舗（すべて仮設の路面店）、無料駐車場 500 台という「館鼻（たてはな）岸壁朝市」である。

開 催場所は、普段は何もない八戸漁港の広大な岸壁である。ここに、3月中旬から12月末までの毎週、日曜日、夜明け前から正午頃まで、毎週 1 万人以上の客を集めて開催されている。とにかく何でも売っている。ミシンや布団まで買える。以前は、自動車まで売られていたそう。早朝、夜が明ける前から、すごい人出と熱気である。一通り、すべての店をぐるっと見るだけで 1 時間はかかる。朝食もここで食べて、帰る時には、両手に持ちきれないほどの土産を買っていた。私は、この朝市を経験してから、八戸に住んでみたいと思うようになった。

(特任教授 桜井慎一)



教員異動

就任：客員教授 高橋浩二 先生
就任：非常勤講師 田中克典 先生
就任：非常勤講師 森田直弘 先生
昇格：星上幸良 先生（4月より教授）

退任：教授 近藤典夫 先生（4月より特任教授）
退任：教授 桜井慎一 先生（4月より特任教授）
退任：特任教授 畔柳昭雄 先生（4月より非常勤講師）
退任：客員教授 新井洋一 先生
退任：非常勤講師 沖田寛 先生
退任：非常勤講師 高野洋平 先生
退任：非常勤講師 中西三和 先生

海建

カイケンマガジン No.117

発行者／福井剛 発行日／令和4年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部海洋建築工学科教室
Tel：047-469-5420（事務室）
Fax：047-467-9446

編集委員：菅原遼
<https://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
デザイン制作 — QB System Co.,LTD.